

英国春秋

2025年 秋号
ISSUE 47
(令和7年)
発行 英国日本人会

はじめに

今年もカンタベリーベルが咲きました。数年前に一株いただいてきたのが、毎年少しずつ増え花壇のあちこちに領土を広げています。色といえ形といえ涼し気な風情なので、この花を見ると爽やかな気分になります。日本では風鈴草と呼ばれ、夏のさなか、チリン、チリンと風鈴の音が聞こえてくるような気さえします。キキョウ科の仲間だそうですが、桔梗より茎は太く風鈴のような花が固まって咲くので、繊細な感じには少々かけます。誰が付けたのか、花言葉は“幸せに感謝します”だそうです、この花を見るたびに「その通り」と自身に言い聞かせるようにしています。



雑誌でコスパとタイパという言葉に出会いました。すでにご存じの方が多いようですが、“コストパフォーマンス”と“タイムパフォーマンス”の省略形で、物事に費やした金額や時間がその結果に見合っているかどうかを判断する基準だそうです。「コスパが良い」とか、「タイパが悪い」とかと使うらしいです。以前から日本語の会話に横文字を次々と入れて話す人を、何となく苦々しく思っていました、それをしかも省略形にされてしまうと、私には意味不明になってしまいます。近頃の文学賞受賞作にも、この手の言葉が飛び出すので、何となく疎外感を味わってしまいます、とはいいながらもこの間読んだ小説の中で、“…ベッドタウンにありがちな、コピペみたいに並んだ新築の家…”、の文章に出会い、その使い方にいたく感心してしまいました。まるで判を押したような同じ家々が並ぶと書くより、PC 言語の 3 文字の方がそのものズバリの表現かとも思いました。恐らく、この文集の編集にも毎回コピーして貼り付け作業を繰り返していますので、より身近に感じられたのでしょう。

前言を翻すようですが、時代と共に言葉も変化して行くのだから、新語や造語の類の出現は自然なのかもしれません。使うか、使わないかはあなた次第というところでしょうか。当初は、若い女性の口から、「ヤバイ」とか「マジ」とかが飛び出すたびに違和感を覚えていましたが、最近は若返ったつもりで、コスパかタイパくらいは使えるかなと思ったりしています。しかし、ウザイ、キモイ、キショイなどは何となく響きが良くないので、意味を知ってみたいとは思いません。そう言えば以前は、授業をサボルとか、あの人はカマトトだ、ホラ吹きだ、デマを飛ばすなんて平気で使っていましたね。その昔、母が、「あの子はアプレだ！」と非難めいた口調だったのを覚えています。(アプレゲールの略) それでは私も一言。「近頃は大した仕事でもないのに時間ばかりかかり、タイパが悪いことこの上なしよ！」と言ってみるのは、高齢者用語としては、ちょっとマズイ気がしないでもありませんが。

アレクセイ・ナワリヌイの「PATRIOT」を読みました。副題にプーチンを追いつめた男・最後の手記とある通り、彼は 2024 年 2 月 16 日にシベリアの強制収容所で獄死しました。殺されたと書いた方が当たっているのかもしれません。彼の 48 年の短い生涯で、「主権は国民にある」とプーチン政権に昂然と挑戦したその勇気と行動力には、今も頭が下がる思いです。ロシアの不正選挙に抗議・やり直しを求める大規模な集会を行い、「反汚職基金」を立ち上げて、プーチンやオリガルヒ達の不正に得た富の独占を世界中に発信し、大きな反響を呼びました。BBC で放映された、プーチンの黒海沿岸にある大宮殿を覚えている方も多いかと思います。ここに本書 538 ページから数カ所、「そうだったの！」を抜き書きしてみたいと思います。

*2020 年、ノビチョク毒殺未遂に遭い機内のトイレの前で倒れながら浮かんだった思いは、「死について巷で言われていることは真っ赤な嘘だ。・・・最愛の人々の顔も現れない。天使も、まばゆい光もありゃしない。ただ壁を見つめて死んで行く。・・・そして死を迎えた。ネタバレ注意だが、実際は死んでいなかった」とその瞬間をユーモア混じりで描写しています。

* * * も く じ * * *

はじめに		2
もくじ		3
孤島には書架を持ち込みたい	加藤節雄	4～5
ハタヤマ・マサオ氏の即興画	浜哲郎	5～6
熱海神社めぐり	ヴェーダ・ナーラヤナサーミイ	6～7
三輪精舎の法語版	石井建心	8
英国春秋俳壇 夏至	エリオットつや子	9
石見神楽、娯楽性を追求し発展	江口真理子	10～11
古典籍スクール18 黄表紙の世界	ブランド啓子	12～13
京都・南座・玉三郎	小川のり子	14～15
ロンドン自然史博物館 Natural History Museum, London	須永静江	16～17
シエナ展 キリストの磔刑を聖書から	ホール美奈子	18～20
ポップ・アーティスト・ハタヤマ氏	クレア恭子	21
色々な色のお話	内田みつえフィンチ	22～23
ロンドン生活今年で50年(2)	田村陽子	23～24
我が家の庭・インドに行ってきました	石山望	24～25
パトリック・モディアノ 「暗いブティック通り」	原田孝雄	26～28
散歩道レポート2025年 Dollis Valley Greenwalk	須永静江	29
英国春秋歌壇 秋の訪れ	バロー典子	30
春秋漫画 ふうちちゃんのお手伝い、DIY・ガーデニング編	ミルロイ美紀	31～33
Desert Island に持って行きたい1冊の本 (ベスト・オブ・マイ・ラストソング)	園部健治	34～35
離れ孤島に持って行きたい一冊の本	ビドル恵	35～39
「記録」と「保存」	ネット文化サロン	39～43
二水会の講演会に参加して	クレア恭子	44
日本の世界的なピアノ国際コンクール「浜コン」に寄せて	小川典子	45～46
続・はじめに、ページ2より		47

特別寄稿

石井建心氏

江口真理子氏

小川典子氏

園部健治氏

原田孝雄氏

ヴェーダ・ナーラヤナサーミイ氏

三輪精舎舎主

島根県立大学国際関係学部教授

ピアニスト、ギルドホール音学院教授他

在英国日本国大使館参事兼領事

元在ロンドン金融会社勤務

Bloomberg LP

(アイウエオ順)

孤島には書架を持ち込みたい

加藤節雄

今号の特集タイトルは「Desert Island に持っていきたい 1 冊の本」ですと聞かされた。BBC ラジオ 4 の長寿番組 “Desert Island Disc” からヒントを得たタイトルだとすぐ分かった。だが、果たして自分

にはそういう一冊があるのだろうかと考えてみた。

小学生の頃から読書が好きだった。中学や高校の頃には学校の図書館に通い、夏目漱石だとか森鷗外といった日本の作家から英文学、ロシア文学まであらゆる本（ほとんど小説）を読み漁った。大学生の頃も読書が好きだった。しかしだんだんと専門書や参考書、論評を読むようになり、いわゆる惹きこまれるような興奮を読書から受けることが少なくなったような気がする。

ジャーナリストになってからは、仕事の関係で話題の本を読んだり、参考文献を調べたりすることが多くなり、



多分読書量はそれなりに多かったと思うが、読書好きと自分で呼べるかどうかは定かではなくなった。特に専門職の人にインタビューする際には事前にその人の書いた本や、その分野の知識を得るためにいろいろな参考文献を読んだ。そのころには読書が仕事の一部となり、楽しむというよりは、必要な知識を得るための手段に変わっていた。

若い頃に読んだ本の中には私の思想の核を作ったものも多いと思う。絶海の孤島に持って行き何回も読み返してみたい本はたくさんあるが、その中から一冊を選ぶのは難しい。出来れば書架を持ち込み、感動を与えてくれた本を次々に読み返してみたいと思う。

私自身が 18 冊の本を出版している。いずれも小説ではなく、エッセー集やガイド本で、今ではほとんどが絶版となっている。ジャーナリストの書いた本であるから、経験や事実を主体にして記述したものが多く、読み返してみても、当時の状況の参考資料にはなるが、読者に感動を伝えたり、生き方に影響を与えたりするとは思えないし、ましてや孤島に持って行く本ではない。

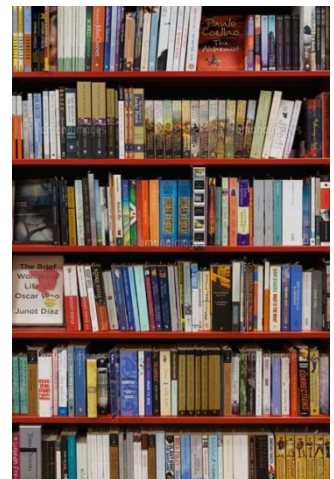
1990 年代にはロンドンで『日英タイムズ』というコミュニティー新聞を発行した。隔週発行の新聞だったが、記事のほとんどを私が書いた。毎回ヘッドライン記事を探すのに苦労し、空いたスペースの穴埋め記事を書き続けた。とにかくいろいろな情報を集め、それを記事にしていって。自分の文章を書くことに忙しく、他の人が書いた本を楽しむ時間も余裕もなかったというのが事実だ。

イギリス人の中にはホリデーに行っても海岸やプール脇で一日中デッキチェアーに横になり読書をしている人がある。私はといえば、せっかくホリデーに行ったのだから、その土地の雰囲気を楽しみ、街並みを見て歩き、お店に入り何か珍しいものはないかと探したり、博物館や資料館があれば入館し、その土地の歴史や有名な出身者を知ったり、特産品や郷土料理を出すレストランを見つけたりすることに興味を湧くのである。どうもこれでは「読書好き」とは言えそうもない。

また、最近は齢のせいで視力が衰えたのか、活字を読むのがつらくなってきているのも事実だ。毎朝新聞を読むが、新聞記事は紙面びつしりと小さい活字で組まれているので、ちょっと長い記事だと目が疲れてくる。虫メガネで読むこともあるが、流し読み（要点だけを拾い読みする）にしてしまうことが多い。

仕事をしているときには昼間読書の時間が取れず、夜ベッドに入ってから読むようにしていたが、それも最近は読み始めてすぐに眠くなり一冊の本を読み終わるのに数週間かかったりしている。ベッドでの読書は最近では眠り薬の役目を果たしている様である。

ある人が視力が弱ったら新聞はオンラインで、本はキンドルで読むのが良いとアドバイスしてくれた。いずれも字の大きさを調整して読むことができるので、目には楽である。ところが毎日数十件入るメールでのやり取り、Instagram にブログ、その他の調べものにコンピューターにかか



りっきりの毎日である。これ以上コンピューターと付き合ったら目に悪いに決まっている。

コンピューターやモバイルで育った子供が、実際に紙の本を手渡され、ページをめくる際に、ページの表面を右から左へ指でなぞるという話を聞いた。私も新聞を読んでいた、字を大きくするため人さし指と中指を紙面に当てて開いてみたいという衝動に時々かられることがある。コンピューター障害と呼べそうである。

いずれにしても **Desert Island** へ持って行きたい一冊は考えつかないのが真実だ。今まで何千冊、何万冊の本を読んだか分からないが、どの本も著者がそれぞれに知識や情熱を込めて書いたものであり、それなりに得るものはあった。イギリスでは本の売上げが上昇しているそうである。そういえば最近ロンドンの地下鉄内でキンドルを読んでいる人が減り、紙の本を読んでいる人が増えたように思う。やはり読書は紙のページをめくりながら、途中で葉（しおり）を入れて後ページかと達成感を楽しむのが魅力だ。



ハタヤママサオ氏の即興画

浜 哲郎



私はどちらかと言えば絵画より音楽の方に興味が向かいがちだ。と言っても音楽にしても演奏をするわけでもなく、詳しいわけでもない。

ある時ロンドンで活躍されている音楽家のセミナーがあった。Q&Aの時間に私は「音楽を聴いて感動して涙が出ることもあるけれど、絵画を見てそう言う経験をしたことがないのですが何故でしょうか？」と質問してしまった。一瞬困ったような顔をしながら、彼は音楽を聴いて感じるどころと絵画を見て感じる受容するものが違うのでは、というような答えをしてくれた。

音楽は耳から受け取り、絵は目から受け取る。その違いは感じ方にも影響を与えるのかも知れない。絵画を見て涙する人もいる筈だ。だから絵ではなく音楽を聴いて涙する私の受容体が少し他の人とは違うのかも知れない。実は同じ質問を親友の画家にしたこともある。返事は覚えていないが同じような答えだったかと思う。

昨年10月ロンドンでハタヤママサオ氏の初めての個展が開催された。彼の絵は色使いがとてもポップで実にカラフル、そして楽しくなるような作品に溢れている。鮮やかな黄色、青、赤と子供が見ても大人でも楽しめるアートだと思う。この個展では、ポスターや小物だけでなく、幾つかの原画も展示されていた。展示会、と言うよりは酒や食事の入ったレセプションの喧騒の中で、私はロンドンのアイコン的な建物やバスを描いた絵や、ビートルズのイエローサブマリンをモチーフにした絵などに惹かれていた。

少しお酒が回っていい気分になりながら絵を見て談笑していたが、部屋の片隅でやたら賑やかな声が上がっていることに気がついた。ハタヤママサオ氏が即興で絵を描いていたことは何となく目の片隅には入っていた。それが完成してオークションに入っていたのだ。賑やかな声はそれが佳境に入っていて値が釣り上がっていることを物語っていた。

人混みの中に鎮座する完成したばかりの絵を見て、つい手を挙げてしまったのは酒の勢いだけではなかったのかも知れない。結果、私はその絵を競り落としてしまった。

10年ほど前に東北大震災復興支援のチャリティーディナーが私のお店で行われていた。この時、たまたま新潟の手作りの桐の家具をお預かりしていて、ちょうど展示が終わったタイミングで、その家具の出展者からどうせならそれをオークションに掛け収益をチャリティーの寄付金にしましょうと言う了解を

得ていた。この時は場を盛り上げる事と、売上金を高く持ってゆこうということもあって、かなり盛り上がったセリ状態になってしまった。相手は既に高額商品を買っている。そこでもう一声吊りあげようと、手を挙げたら何と相手はそこで引いてしまい、私が自分で買うことになってしまった。それはほぼアクシデントだった。

オークションで作品、商品を競り落とすのは初めての経験ではないが、個人的に手に入れると言うのはあの時以来だ。かくして、私はオークションで競り落としたハタヤママサオ氏の絵を手に入れることになってしまった。この絵を家に持ち帰った時「なにこれ？」と違和感を訴えていた娘は暫くして「馴染んできた」とのたまう。実は私もだんだんこの絵に馴染んできている。



因みに私は色覚異常者（色弱）だ。だから多数の人が見るのとは少し違って見えている。それは音楽を聴くのと絵画を見る時の感覚の違いに比べれば些細なことなのかも知れない。さらに言えばゴッホやウィリアム・ターナーなども色弱だったと言われているし、実際はもっと多くの方が色覚異常と言われる違いを持って生活していたのだろう。



（日本人では男性の20人に一人の割合、白人の場合もっと高い確率で色覚異常であると言われている）この絵は北斎の神奈川沖浪裏のような下絵から始まってこのように完成したハタヤママサオ氏のサイト <https://www.hatapopworks.com/>



熱海神社めぐり

ヴェーダ・ナーラヤナサーミィ

熱海と聞くと、リゾート地や昔の新婚旅行スポットを思い浮かべる方も多いかもしれません。今回私は、少し違う熱海を体験してきました。ご縁を結伊豆山神社・来宮神社を旅行してきました！神社をただ参拝するだけではなく、正しい参拝&神社の楽しみ方を伝える旅行、として、友人に紹介され参加しました。日本人でも知らないことが多かったようで、友人も喜んでくれました。



伊豆山神社：

鎌倉時代に愛を深めた源頼朝と北条政子が訪れ、思いを重ねた伊豆山神社。境内には「訪れると必ず結ばれる」と言われる恋愛成就の神様が祀られた結明神社もあり、「最強の縁結びパワースポット」として知られています。恋愛成就だけでなく、強運を授かるご利益も期待できる場所です。緑に包まれた山道をおよそ1時間登った先にある本宮社（元宮）は小さな社ながら、力強いエネルギーに満ちています。



来宮神社：



参道の先に立つのは、樹齢2,100年以上、高さ約26メートルの御神木・大楠。幹を一周すると寿命が1年延びるという伝説もあり、参拝者は健康や長寿、心願成就を願って訪れます。来宮神社は「木宮」とも記され、木に宿る神々を祀る信仰が根付いた神社。



伊豆山神社は、境内をすべて回るにはかなりの山道を登る必要がありましたが、その分、自然に包まれた空間からは強い霊的な気配を感じることができました。一方で、来宮神社は参拝しやすく整備されており、観光地としての要素も強く感じられ、少し商業的な雰囲気がありました。神聖な空気と観光スポットとしての雰囲気の違いも、両神社を訪れる楽しみでした。

神社で教えてもらった神社の特徴について紹介します
御朱印の集め方：

神社とお寺の御朱印は分けて持つのが安心です。神社の御朱印は神様とのご縁の記録、お寺の御朱印は仏様とのご縁の記録として意味があります。混在すると、場合によっては御朱印を受けられないこともあるため注意しましょう。

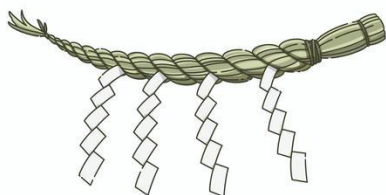
手水の作法：

- * 自分で手水を使うときの作法は、まず右手で柄杓を持って水を汲み、左手にかけて左手を清めます。
- * 次に柄杓を左手に持ち替えて、同じように右手を清めます。
- * 再び柄杓を右手に持ち、左の手のひらに水を受け、その水を口にふくんですすぎます。（このとき、柄杓に直接口をつけることは誤りです）
- * 口をすすぎ終えたら、もう一度水を左手にかけます。
- * 最後に水を入れた柄杓を立て、柄に水を流してから柄杓置きに伏せて置きます。

紙垂（しで）：紙垂は雷光や稲妻をイメージして作られたものであり、神域にやってくる邪悪なものを追い払うという意味合いがあるらしいです。

注連縄（しめなわ）：神社の鳥居や拝殿、神棚などに張られ、神聖な場所と不浄な外界を隔てる「結界」としての意味を持っています。

紙 垂



しめ縄



三輪精舎の法語版

「子どもの産声を聞くと、母もまた初めて生まれ出たように感じる」

『佛説父母恩重經』より

石井建心

毎春には **Spring School**、毎夏には山口大学工学部の研修会が行われ、それぞれ十数名の学生が日本から来英し、三輪精舎に滞在します。その間、毎朝『佛説父母恩重經』を輪読し、自らを見つめ、感想を分かち合います。輪読を通して、参加者は自分がいかに自己中心的に物事を捉え、何も見えていなかったかという事実気づき、両親や家族への感謝の思いを感想文に綴ります。今年も八月に山口大学の学生たちが来英し、真摯に輪読を重ね、心に響く感想文を書いてくれましたので、紹介します。

感性デザイン工学科二年 女子学生

この研修で最も心に残ったのは、「感謝」「誕生」「出会い」についてです。



まず「感謝」について。建心さんが「友達や他人には簡単に『ありがとう』と言えるのに、なぜ父母には言いにくいのか」と問いかけられました。それに対し鎌田さんが「友達に『ありがとう』を言わないと離れてしまう気がするけれど、親は言わなくても離れていかないから」と答えられ、その言葉が心に深く刺さりました。さらに、建心さんや顕明さんが「親の存在や、子どもにしてくれていることを当たり前と思っているのではないですか？」と仰った時、私は命がけで産み育ててくれた母や、家族を支えてくれている父に対して、感謝を表せずきた自分を恥ずかしく思い、深く反省しました。「当たり前」は決して当たり前ではないと気づいた瞬間、世界の見え方が大きく変わりました。

次に「誕生」について。私たち一人ひとりには必ず親がいて、その先には祖父母、曾祖父母と、系図のように限りなくつながっています。その誰か一人でも欠けていたら、私はこの世に存在していなかったと考えると、生きていること自体が奇跡であり、命の尊さを実感しました。「誕生」とは出産による誕生を思

い浮かべていましたが、建心さんが「親は二度出産を経験する」と仰った言葉を聞き、それは人が新たな段階に進むときのことだと気づきました。前へ進もうとすることを「誕生」と表現されていることに、深い感銘を受けました。

そして「出会い」について。建心さんが語られた、かつて敵対していた日英の退役軍人が和解したというお話が強く印象に残っています。なぜ二人が最期まで交流を続けたのかと考えたとき、互いにその出会いの意味を確かめ合い、必要とし合っていたのだと感じました。私はかつて信じていた人に裏切られ、「出会わなければよかった」と思ったことが何度もありました。しかし三輪精舎に来て改めてその人との出会いの意味を考えたとき、それは私の心の成長の糧であり、人との関わり方を教えてくれる大切な出会いであったと思えるようになりました。どの出会いにも必ず意味があり、それを見いだすことが大切だと学びました。

学生の感想文を読みながら、気づきを得たときに目の前がぱっと明るく開け、新しい世界に誕生していく姿を感じました。その声はまさに彼らの「産声」であると実感しました。そして、もしその生の声を親御さんが聞かれたなら、どれほど喜ばれることかと思った時、私自身も一人の子どもとして精神的な気づきを重ね、喜びの産声を上げ続けることこそが、父母へのせめてもの恩返しであると教えられました。

合掌



英国春秋俳壇

エリオットつや子

夏 至

夏至の空いつまでが昼いつから夕
短夜の辻褄あわぬ夢の中
夏休み子らの歓声ふつと止み
サングラスかけて目が合い笑み返す

お神輿と笛や太鼓のうちわの絵

昼さがり猫と向かいて西瓜食む

盆過ぎて月は体を細らせる

何の油断まだ生きている夏の風邪

紫の桔梗目に沁む心沁む

白桔梗母親そばにいるような

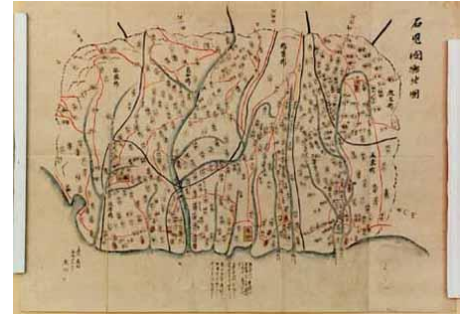
石見神楽、娯楽性を追求し発展

江口真理子

「ちはやふる 玉の御すだれ巻き上げて
神楽の声を きくぞうれしき」

この歌は神様が神楽を楽しんでいる様子を描写したのですが、この歌を知っている日本人は少ないでしょう。ところが、島根県西部の石見地方では、この歌を誦んじることができる人が多くいます。それは日本の神話を題材とした神楽がとても盛んな地域だからです。

現在、日本では、能、歌舞伎、文楽、神楽といった伝統芸能が危機に瀕しています。都市化とマスメディアを通じた大衆文化の普及によって、娯楽が多様化したからです。しかし、島根県西部では、石見神楽という伝統芸能がとても盛んです。石見とは島根県西部の古い国の名前です。令和3年には女性だけの神楽社中も誕生しました。石見神楽は子供から大人まであらゆる世代に人気があり、週末ごとに年中神楽が演じられています。



古地図コレクション

神楽は、岩戸に隠れた天照大神を呼び出すために天鈿女尊が桶を足で鳴らしながら踊ったことに由来すると言われる舞です。多様な様式の神楽が日本の各地に存在していますが、能や歌舞伎と比べて、神楽の認知度は高くありません。神楽が日本の伝統芸能としての地位を確立していない理由の一つに、神楽が国によって弾圧されてきたことが挙げられます。1回目の神楽弾圧は、明治政府による「神職演舞禁止令」の発令です。日本の近代化を目指した政府は神がかりによる託宣のある宗教儀式を禁止しました。これによって神職が神楽を舞うことができなくなりました。2回目の神楽弾圧は、第二次世界大戦後、GHQによって発令された **Shinto Directives** です。GHQは日本の軍国主義と神道の関係を問題視して、神道に関わる行事を禁止しました。その中に、神楽も含まれていました。では、このような神楽の弾圧にもかかわらず、石見神楽が島根県西部で盛んに演じられている要因はどのようなものなのでしょうか。

1回目の弾圧の時、島根県西部では、神職たちが一般人に積極的に神楽を教えて普及活動を行いました。江戸時代、神楽を舞うことができるのは、神職だけで、一般人が神楽を舞って興行することは禁止されていました。ところが、島根県西部では農家の息子たちが勝手に神楽を舞って、収入を得ていたことがあるくらい、大衆の間で神楽が広まっていた。江戸時代においては、神職の方はそれを禁止させようとして、神楽道具を没収したりしたそうです。しかし、明治時代になって神職が神楽を舞うことができなくなった時、神職たちは積極的に各地を周り、一般人に神楽の舞や奏楽を教えて、神楽の伝承を図ったのです。

神職が神楽を舞っていた頃は神職のグループが各地域を巡って舞を見せていましたが、一般人が神楽社中を作るとなると面、衣裳、笛、太鼓などの道具が足りなくなりました。そこで画期的な発明がありました。それは、紙で面を作るという新技術です。それまでは能面と同じ木彫りの面しかなかったもので、入手が困難でしたが、石州和紙を使って軽くて丈夫な安価な面が発明されるようになると、いろいろな表情をした面がたくさん作られるようになり、どの社中もいろいろな面を入手できるようになったのです。

もう一つの発明は大蛇の衣裳の発明です。もともと大蛇に衣裳は鱗模様の着物に、布製の長い尻尾を



つけたものでした。演者はその尻尾を引きずって、櫛を手に、舞台を這いまわって、大蛇を演じていました。提灯からヒントを得た1人の舞い手が、竹と和紙を使って17メートルの長さがある大蛇の衣裳を製作しました。この新しい衣裳によって大蛇の演舞がダイナミックでリアリティの高い芸能に進化したのです。この舞台装置の視覚的演出効果は目覚しく、日本全国の神楽に影響を与えました。

さらに、神楽の台本が整備されたことも島根県西部で神楽が広く普及した大きな要因です。もともと、神楽の口上は、口伝で教えられていたため、師匠から弟子に伝えられるものでした。しかし、明治の初期に国学者や神職の手によって、歌や口上が「神楽の声」という台本が作られました。その後、昭和になって「校定石見神楽台本」が完成しました。台本が大衆化に影響を与えました。

加えて、奏楽のテンポが早く軽快に変化したことによって、観客を惹きつけるようになりました。神楽の奏楽はもともとはゆったりとしたテンポのものだったのですが、スピード感あふれるテンポに変化したことによって、演舞に高揚感と活力が加えられました。緩急を織り交ぜたドラマチックな奏楽が生まれた背景には、重たい木製の面が軽い面が変わったこと、ずるずる引きずっていた衣裳が取り回しのいい衣裳が変わったこととも関係があると思われます。その後、ゆったりとしたメロディしか奏でられない篠笛ではなく、リコーダー式の笛に変わり、笛の音を出すことも簡単になって、早い曲を奏でることができるようになったことも、神楽の大衆芸能化の要因になったと思われます。

では、2回目の GHQ 占領下での神道行事の禁止の時は、どうなったのでしょうか？これについては詳しくわかりませんが、島根県は中央から遠く離れていたため、こそと神楽を続けていたのではないかと思います。GHQ の支部が置かれていた広島では神楽はできなかったため、神楽の演目が日本の神話から歴史上の人物の物語に変更されています。しかし、島根県の場合は、そのような演目の変更はなく、今も昔も神楽の題材は日本の神話が演じられています。中央から離れていてお上の目が届き難かったこと、人々の娯楽は神

楽しかなかったことが、石見神楽が続いてきた要因でしょう。

現在の石見神楽は、天照大神の岩戸隠れ、須佐男の命の大蛇退治、日本武命の熊襲退治など、日本の神話を、緩急織り交ぜたドラマチックな奏楽に合わせて、豪華な衣裳を身に付けた演者がダイナミックに舞う壮大なスペクタクルとなっています。ドライアイス による白煙、口から火を吹く大蛇、表情豊かな大きな面、金糸や光物を使った豪華絢爛な衣裳、最速で回転する演者、見るものの心拍数をあげる太鼓のリズム、哀愁漂う笛のメロディのような石見神楽の特徴は、観客をファンタジーの世界に連れていきます。石見神楽がエンターテインメント性の高い神楽として発展してきたのには、神職が一般人に神楽を伝承してきたこと、新しい道具が発明されたこと、台本が普及したこと、島根県西部が中央から遠いという地理的要因があったからです。関東の人の中には島根県はどこにあるかわからない人もいます。そのような場所に石見神楽という日本の神話をテーマにした芸能が今でも伝承されていることは、とても貴重なことだと思いませんか。ぜひ、帰国の折には、石見神楽を鑑賞され、非日常を味わっていただきたいと思います。

この度は日本人会二水会において石見神楽について講演させていただいたことをご縁に英国春秋に寄稿させていただきました。二水会の講演に参加されておられた方が実際に島根県に立ち寄られ石見神楽を見てもらえることになり、とても光栄です。帰国の際にはご連絡いただければ石見神楽の見どころを詳しく説明したいと思います。島根県浜田市で **Sunset Hills** という宿泊施設を運営しておりますので、ぜひお立ち寄りください。



古典籍スクール 18

黄表紙の世界

ブランド啓子

(1) 草双紙

今回は物語の祖、平安初期の『竹取物語』を読みました。今回は時代は飛んで江戸後期、出版ブームの中、草双紙という近世を代表する華麗な絵入り本です。元来子供向けの、赤本（御伽話）青本（浄瑠璃や歌舞伎のあらすじ）黒本（敵討ちや武勇伝）が、大人向けの読み物として黄表紙へと変身。全丁に挿絵が入り、余白には本文や登場人物の会話文が、びっしりと書き込まれ、絶妙のバランスを保っています。しかも版画なので線はくっきり。黄表紙と洒落本の違いは、黄表紙は庶民向けの娯楽本で社会風刺や滑稽な物語が挿絵とともに展開され、一方洒落本は知識層向けの遊郭文化・男女の会話をテーマにした、文章主体のものでした。朋誠堂喜三二（ほうせいどうきさんじ）（1785-1813）は洒落本『当世風俗通』を金錦佐恵流（きんきんさえる）のペンネームで執筆し、遊郭でのダンディな遊び方を指南して、大人気となりました。これに触発され恋川春町（こいかわはるまち）（1744-1789）は、『金々先生栄花夢』（きんきんせんせいえいがのゆめ）を創作。挿絵も自分で描き、これが黄表紙の祖とされる一作となりました。朋誠堂喜三二も恋川春町もともに出自は武家、文才と画才を兼ね備えた2人は、思いのままにのびのび世界を構築しましたが、後に幕府のお咎めにあってしまいます。恋川春町はこれが元で亡くなります。



恋川春町 またの名は『酒上不埒』
『吾妻曲狂歌文庫』

狂歌 もろともに
ふりぬるものは
書き出し（請求書）と
くれゆく年と
わがみなりけり

（また今年も請求書の山、
そして自分も 一緒に年老いてゆく）

(2) 一炊の夢

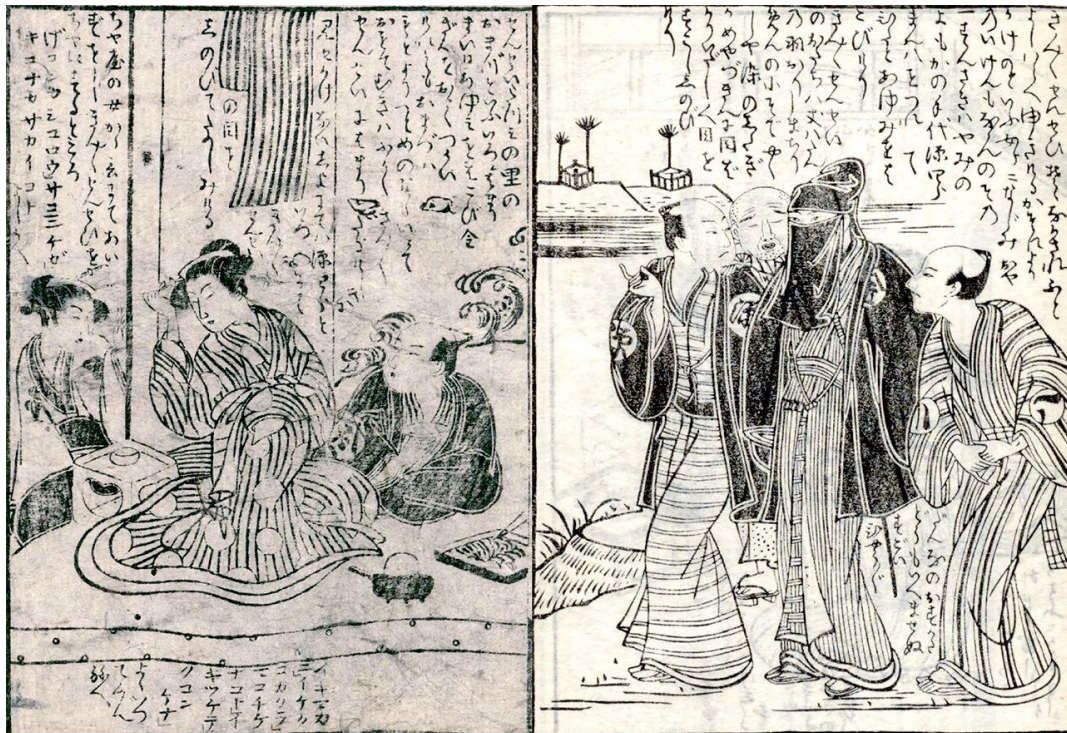
『金々先生栄花の夢』では、江戸で立身出世を夢見る「金村屋金兵衛」（かなむらやきんぴょうえ）が夢の中で栄華を極めたものの、散財の果てに落ちぶれたところで目を覚ますという物語。「様々な出来事は実は儚い夢だった」との構図を用いて、田舎から成功を夢見て出てきた金々先生が栗餅屋で栗餅ができるまでの間眠ってしまい、目が覚めるまでの一瞬の間に自分の一生を見て、悟りを得て再び田舎へと帰るお話です。どうも成功のカテゴリーには、遊郭での大散財が必須の様です。この『夢』を筋書きのターニングポイントに使う構想は中国の故事に題材をとったもので、邯鄲の夢、一炊の夢など非常に便利な物語構成要素です。

(3) 江戸の風

これら黄表紙や洒落本の中の会話を読んでみますと、軽妙な美しい江戸弁には現在では遭遇できない寂しさが湧いてきます。2001年までは、その江戸を身に纏った落語家が存在しました。三代目古今亭志ん朝(1938-2001)です。古典落語、世話物どれをとっても彼を凌ぐものはありませんでした。小林信彦(小説家・コラムニスト)は『週刊文春』2001年10月18日号のコラムに「志ん朝さんの死、江戸落語の終焉」という文章を寄せました。

『…彼の死はマスコミが伝える様な〈江戸落語の名人の死〉を意味するだけではない。夏目漱石を読むのに江戸落語の知識が必要であるような、そうした意味での〈ことば〉の終わりをとも意味する。死と同時に志ん朝は、〈江戸ことばの絢爛たる世界〉という文化をも、あの世に持っていったのである。われわれは、はからずも、〈江戸の大衆文化の一つ〉の終焉に立ち会ったのだが、その喪失感の深さ、大きさはまだ十分に理解されたとは言えない。なぜなら、それは形ではなく、〈ことば〉の問題だからである。』

古今亭志ん朝の高座では、彼が出囃子「老松」の三味線の音にのって登場、座布団にすわり、羽織の紐を美しい手捌きで解いて、肩から羽織をすべらせ口を開いた途端に、さあっと一陣の風が巻き起こり、あたり一面を江戸色に染めてしまうのでした。



『金々先生栄花夢』は粋を気取って吉原で遊ぶ若者の滑稽さを描いた黄表紙の傑作。

国立国会図書館所蔵

左頁横と下のカタカナのセリフは、カ行の音を間に入れて他人にわからない様にするテクニック。

右頁は3人のお供を引き連れ、金々先生、手代の源四郎げんしろう、太鼓持ちたいこもちの万八まんばち、座頭ざとうの五市ごいちなど、着物に名前がついている。

ブランド啓子 : 古典籍研究家

本文はJCZ会報エーデルワイスよりの転載、筆者にて許可取得済み

京都・南座・玉三郎

小川のり子

京浜電車の祇園四条駅から地上に出ると、一度にむっとした熱気が体を包み、一瞬、このまま歩き続けるのがためらわれた。梅雨時とはいえ日差しは強く、手持ちの雨傘で光を避けて四条大橋を渡る。久しぶりに目にする鴨川の水嵩は低めで、所々に川床があらわれ、葦や雑草で覆われていた。とにかくどこか涼しいところと飛び込んだ冷房の効いたビルで一息。丁度昼食時だったので、ビル内の“北極星”と呼ばれるレストランで、合鴨と九条ネギのオムライスを注文。メニューもろくろく吟味せず涼しさを優先させたのに、頼んだ料理は旨味十分。3種のキノコと九条ネギで味付けされたライスが、ふんわりと焼かれたオムレツにくるまれ、薄切りの合鴨とソースが添えられていた。合わせて頼んだコンソメとサラダも主役の引き立役でサラッとした風味。そう言えば日本では、“カモネギ”と言われる諺があるほど、鴨に葱はつきものだが、洋風スタイルの料理でもこの2つの相性は悪くない。「ミシュランなら星が幾つ？」なんて思いながらすべてを平らげた。



“南座”と聞くだけで子供の頃を思い出す。“祇園さん”、“お西さん”、“おやかまっさんどした”“おくれやす”などの京都弁が口について出てくる。最近は何れも忘れたが酷いのに、半世紀以上の昔でも断片的な記憶は鮮明であるから不思議な気がする。南座の正面に吉例顔見世興行の役者たちの顔絵がずらりと並んだ風景、棧敷席とお重箱の弁当、花道、大向こうからの掛け声、人が狐に、狐が人に…次々と浮かび上がってくる。歌舞伎のことなど何もわからない私を南座に連れて行った祖母も母も、遠い昔の人になってしまったが、あれやこれやの想いが重なり、「昔を今になす由もがな…」と感傷的にさせてしまう。

ここ数年一時帰国の度に、南座で歌舞伎との思いが続いたが、やっと実現、切符がとれた。今日は坂東玉三郎の特別公演で出し物は、竹久夢二生誕百四十年を記念した夢二づくし。

雨に濡れる紫陽花が美しい季節、京都はだんだんと暑くなってまいりましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。本日はご来場いただきまして、誠にありがとうございます。

・・・の口上で現れた玉三郎は聞きしに勝る、それこそ“水も滴^{したた}るいい女形”と形容しても言い過ぎではない。“水も”のすぐ後に彼の歳を言い出すのは少々はばかれるが、チラシによれば1950年生まれとあったので、「凄い！」と驚くとともに感心もする。それにまた後期高齢者の私が、高齢者の玉三郎を誉めても、けっして目が悪いせいではないはずと確信。歳を明かしてしまったので、ついでに彼は、重要無形文化財「歌舞伎女形」保持者（人間国宝）に認定され、フランスでも芸術文化勲章最高賞「コマンドゥール」を受章とも記されている。

口上に続き、地唄舞「残月」で美の美を堪能させてくれる。磯辺の松に見え隠れしながら、沖の彼方に沈んで行った月に寄せ、若くして逝ってしまった女の命の儚さを踊りで表現。抑制されながらも細やかで優雅な動き見せる彼の所作、切々と謳い上げられる地唄に箏と三味線が伴い、玉三郎の舞は我々を幽玄の世界に誘い込むよう。

次の「夢二慕情」は、舞台いっぱいに映し出された映像で観客の目を楽しませる。昭和59年に新橋演舞場で上演されたこの作品を、映像として新しく撮り下ろされたと説明される。竹久夢二が愛した3人の女性、たまき、彦乃、お葉たちを玉三郎がそれぞれ演じ分ける。映像で、それも10代の小娘までをと思ったが、違和感を覚えさせなかった彼の容姿と演技は、“国宝級”ともなればさすがと感嘆。



最後の「長崎十二景」は組曲と踊りが一体となり、玉三郎の美を心行くまでに堪能させてくれる作品。大正・昭和の初期に活躍した竹久夢二が描いた12枚の水彩画「長崎十二景」に、邦楽作曲家唯是震一^{ゆいぜしんいち}が組曲を発表。異国情緒豊かな長崎を背景に描かれた夢二の画は、「青い酒」、「サボテンの花」、「ネクタイ」、「十字架」、「灯籠流し」、「化粧台」、「出島」、「浦上天主堂」、「風揚げ」、「眼鏡橋」、「阿片窟」、「丘青楼」などで、それらを京都の展覧会で観た作曲家が感銘をうけ、タイトルもそのまま12の組曲を編成。楽器は尺八、箏、三絃、十七絃、鐘、胡弓で構成され、舞踊劇は12枚の画を追うように進んで行く。

廊^{くろわ}の小部屋で女は好きな男を待っている。ようやくやって来た男の見慣れぬネクタイに「誰から？」と妬いて見せたりする。灯籠流しの夜、2人は久しぶりの逢瀬を楽しむ。翌日、2人が出かけた先で雷雨に遭い雨宿り。そこでアヘン煙草をのみ幻想の世界にしばし逃避。やがて現実に戻った二人は丘に登り、風揚げを見物。しかしその風の糸が突然切れたのを見て、女は悪い予感を覚える。それからしばらくして雪の降るある日、男が別れの手紙を残し去って行く。女は悄然としながらも、男への未練を打ち消すような仕草で手紙を細かくちぎり、雪が舞う空に散りばめる。



竹久夢二木版画「雪の日」

20名近くの出演者が繰り広げる舞台は華やかで、ある場面では何故か中国人風の男女が10人ほど登場。きっと長崎の異国情緒を醸し出すためなのだろう。セリフがないだけに玉三郎の一挙一動に集中でき、彼の繊細で優雅な所作に夢二の美人画を重ね合わせ、まさに夢の一時を過ごす。彼の口上の最後のことば、「・・・夢のひとつときをお過ごしただければ幸いです」の通りとなり、幕が下りる。「音羽屋はん、ほんまにお疲れさんどした」と心の内で呟きながら、席を立つ。

南座を出てしばらく行くと花見小路に入り、昔ながらの紅殻格子に犬矢来の建物、一力茶屋が現れた。「忠臣蔵」では内蔵助が上野介の目を欺くために「飲めよ、唄えよ」と散財した料亭と聞いているが、打ち水された玄関の奥は暖簾に隠れて何もみえない。ここは、“一見さんお断り”と聞いているが、「料金はどのくらい？」と気にもなった。そういえば祖母の家系は播州赤穂の士族だったとか。もし、あの討ち入り事件に関与していれば、ご先祖さまは切腹か浪人の憂き目。たとえお家が続けていても幕末では完全失業。どちらに転んでも良いことなしの武士の人生・・・などとあれこれ思いながら一力亭を通り過ぎた。

食事時にはまだ早いこの界限をうろついているのは、我々のようなお上りさんと、外国からの観光客だけのよう。借りものですよと言わんばかりの着物姿の外人客がチラホラ見られ、「この暑いのに、まるで我慢大会ね」とつい同情してしまった。たとえ貸衣装でも、日本文化を体感させるには手っ取り早く、これを考え付いた京都人の商魂のたくましさはさすがと感心。しばらく歩くと建仁寺に辿り着いた。入り口には俵屋宗達の「雷神風神図屏風」のポスターが貼り出されていたので、「あのオヘソが見える雷さまが」と喜んだが、丁度6時で本日終了、次々と帰り客が出てきた。以前、東京国立博物館で光琳の同名の屏風画を見た記憶はあるが、宗達の実物にはお目にかかったことはない。近くにいた警備の人の話では、現在、実物は京都国立博物館に寄託されているそう。この寺にあるのは、陶板のレプリカとデジタル複製だとのことであった。



それでは、「またその内に」と気を取り直した。

昼間の暑さも少しは和らぎ、ひと気も疎らになった禅寺の庭で、思い出ばかりが増えて行く京都に思いを馳せながら、しばらく時の流れに身をゆだねた。

Natural History Museum, London (ロンドン自然史博物館)

須永静江

Evolution Garden (進化園)

2024 年 7 月に、5 年計画で取り掛かかれていた「進化園」が開園して、もう、一年以上が経過している。ロンドン自然史博物館の正面入り口 (Cromwell Road 側) の庭は、入って直ぐ半分の Evolution Garden と、中央より奥半分の Nature Discovery Garden の二つに造り上げられた。今回、私は、その内の Evolution Garden を取り上げる事にする。



地下鉄駅 South Kensington の改札口を出て、直ぐ右に曲がると地下道が伸びる。数分歩いた左側の出口の上に、Natural History Museum という文字と矢印が出て来る。そこに足を踏み入れると、突然両脇に岩壁が現れ、正面向こうに、温かいテラコッタ色の博物館が聳え立って見える。

「進化園」を作った研究者の話によれば、この園には、地質学年代(ちしつがくねんだい)に合わせて 26 種の岩石が使用しており、その内の 24 種は、全て、Britain 島の物であるとの事。この事は、Britain 島に、過去 27 億年に渡る地球の歴史を記録した岩石が、ほとんど残っているということである。

まず、溪谷をあしらった両脇の岩石は対称的に同じ種類の物であるようだ。一種ずつ、つぶさに見て行こう。

Pre-Cambrian (カンブリア紀以前=今から、5 億 3900 万年以前) : 左側を見て行こう。最初に見える、固い grey 色に、黒色やピンク色、白色の縞模様のある岩石層は、Britain 島で一番古い Lewisian Gneiss (ルイジアン・ナイス) と呼ばれる岩石の層である。Scotland の北西に位置する Lewis (ルイス) 島から運んできた物で、27 億年の歴史を持つ変成岩である。gneiss (片麻岩) には、花崗岩(granite)のような火成岩や、頁岩(shale)のような堆積岩が、熱と圧力で新たに gneiss に変成された物や、既に、熱と圧力で変成岩になっている緑色片岩 (greenschist) や gneiss などの岩石が、再度、熱と圧力を受けて gneiss に再変成された物などがある。ルイス島の片麻岩も、27 億年と言う長い歴史の間に、何度か沈み込み (subduction) や造山活動 (orogeny) の影響を受けて来たと思われる。そのたびに、地中 80km 以上の深さで、超高度の熱 (700 ~ 1600° C) と圧力(海面にかかる大気の圧力の 2 万 1000 倍以上)を受け、岩石内の鉱物が溶けて再結晶され、新たに変成岩になり変わったと想像される。



片麻岩

溶岩中の鉱物が、地殻深くで結晶化するには、何百万年~何千万年も時間が掛かる。普段、通りを歩いている時、歩道のカーブに使われている花崗岩が、小さな、平たい光をキラキラと放っているのを見かける事があると思うが、これは、花崗岩の中の鉱物 ; 石英 (quartz クォーツ) ・長石(feldspar フェルズパー) や 雲母(mica マイカ)などが、地殻深くでゆっくりと結晶化した物である。私が「進化園」第 5 回目の見学の折、運良く、太陽が右側の岩石層を照らし出した。良く見ていたら、片麻岩の縞模様の各所から、小さな金色の丸粒の光が無数に放たれていた。それは、金色に見えたが、鉱物は、金ではなく、実は、銅だったのかも知れないし、クォーツや、長石、雲母に過ぎなかったのかも知れない。gneiss (片麻岩)は耐熱性に富み、見た目が美しいので、台所のテーブルトップや、お風呂場の化粧台に、また、耐久性に富み・滑りにくいと言う特徴があるので床材として、さらには、墓石や建物の正面飾りに使われている。

ルイス島は、長年の風化や侵食のため、現在、岩山(いわやま)が丘のように滑らかに低く削られて穏やかな景観を呈している。Lewisian Gneiss と同種の岩石が Greenland の南西部や Canada の Labrador 、Norway 北部にも存在しており、これらは、古く Archaean (始生代=40~25 億年前) 時代の North Atlantic Craton (北大西洋地殻プレート) の断片とされている。



斜長石

次に、赤茶色の大きな岩がいくつも並ぶ下の方、地面近くに、白色の岩があるが、これは、White Anorthosite (ホワイト・アノーツサイト白斜長石) と呼ばれ、地中のマグマが地殻の中に噴き出し、長期結晶過程の早期に形成された火成岩で、Isle of Harris (ハリス島) から運んできた物。約 18 億 8000 万年前頃に形成された。アノーツサイトは、地球上では比較的珍しい岩石であるが、月面の高い所 (lunar highlands) が際立って白く見えるのは、この Anorthosite (アノーツサイト斜長石) が圧倒的に多く存在しているからである。アノーツサイトは、カルシウムや珪酸、アルミニウムを含み、陶器やファイバークラス (繊維ガラス) の生産に使われている。

次に、Lewisian Gneiss や White Anorthosite の上に何層か厚く積み上げられた赤茶色の岩石は、Torridonian Sandstone (トリドニアン砂岩) と呼ばれる物で、Scotland の North-West Highlands から運んで来た物。10 億年以上古い物である。この砂岩が形成された場所は、広大な地形に、広大な河が幾つも交差して流れ、風化・侵食した山の土砂や、砂利、泥が湖や河口に大量に運ばれ、長時間かけて堆積されたと想像される。これらの混合物は、厚く堆積し、圧力に押されて硬い重い堆積岩となった。非常に古い物でありながら、沈み込みや火山活動に巻き込まれて変成岩になることもなく、堆積岩として今に至っている。この岩石ができた頃の地球は、まだ、十分にオゾン層が発達しておらず、紫外線が強くて、地上に生き物が生存できる状態ではなかった。水中には、微生物が群がり、藻類が繁殖して酸素の量を少しずつ増やしつつあった。トリドニアン砂岩には、肉眼では見えないような小さな真核生物 (eukaryote・ユ-カリ-ヨー-テ) の化石 (microfossils) があり、10 億年以上前の地球の環境を知る上で貴重な資料とされている。10 億年前の地球は、Supercontinent Rodinia (超大陸・ローディニア) が形成されていた時代である。現在の北アメリカ大陸の基となる Laurentia (ローレンティア) という大陸地殻の東に、カナダの一部や Greenland が位置し、Scotland と Northern Ireland がさらに、東南の端に位置していた。トリドニアン砂岩は、この位置にあって出来た物と思われる。これらの砂岩が赤いのは、酸化した鉄分が砂粒などの堆積物を覆っているからで、これによって、私たちは、これらの岩石がどのような環境下で形成されたかを想像することが出来る。



トリドニアン砂岩

次に、緑色を帯びた岩石は、greenschist (グリーンシスト・緑色片岩) と呼ばれる変成岩で、カンブリア紀前、今から、約 7 億年ほど前に形成された物。Scotland の西海岸 Argyll (アーガイル) から運んで来た物である。greenschist は、火成岩である basalt (バソルト・玄武岩) や 堆積岩である shale (シェイル・頁岩) などのような岩石が、地殻の沈み込みや造山活動に会って、地下 8~50km の中程度の深さで圧力を受け、温度 300~450℃ くらいの比較的低温の環境で、溶岩中の鉱物が結晶して出来た変成岩である。比較的柔らかな岩石なので、道路工事などには使われないが、先史時代のヨーロッパや北アメリカでは石斧として使われ、現在の日本では、庭石などとして使われている。greenschist が重要なのは、この岩石を調べる事で、過去のプレートの衝突・沈み込み、造山活動の様子、地殻内の熱と圧力による鉱物の結晶の様子などが理解できるからである。



緑色片岩

ここまで見て来て気が付く事は、Britain 島の一番古い地質学史を記録しているのは、Scotland 、特に、北西部の岩石であると言う事である。

シエナ展 キリストの磔刑を聖書から

ホール美奈子

イースター（復活祭）は、イエス・キリスト（以下、聖書の引用以外、「主イエス」と表記）の復活をお祝いする、キリスト教の最も重要な祝日です。毎年春先に訪れるイースターの前には 40 日間にわたるレント（受難節）があり、主イエスが十字架に至るまでの苦難の道を思い起こす期間です。今年、このレントの始まりと時同じくして、ナショナル・ギャラリーシエナ展が開催されました。ある作品の前で、他の鑑賞者から聞こえてきた質問を中心に「磔刑」（たっけい）をテーマに描かれた作品を、聖書の記述と共にご紹介させていただきます。

聖書は旧約と新約の二部に分かれています。「約」は文字通り、神と人間との契約です。新約聖書はマタイ、マルコ、ルカ、ヨハネ、それぞれによる福音書で始まります。（以下、それぞれ「マタイ」、「マルコ」、「ルカ」、「ヨハネ」と表記）そして、主イエスの弟子、或いは弟子につながる人物であるこの 4 名の筆者によって、主イエスの物語が語られています。この福音書を題材としたキリスト教関連作品は特にヨーロッパを中心に数多く、絵画のみならず、音楽やその他の芸術作品にも大きく影響しています。

では、その Pietro Lorenzetti の The Crucifixion から見ていきます。この作品がどの福音書を基に描かれているかは、この絵のどこに注目するかによって分かります。主イエスが十字架にかかって亡くなった、イースター直前の金曜日（Good Friday）の出来事が見事に表現されています。（文章の前に表記されている番号は聖書の「節」を表します）

ヨハネによる福音書第 19 章 17 節から 35 節の中から

17 イエスは自分で十字架を負って、「どくろの場所」と呼ばれるところに出て行かれた。そこは、ヘブル語ではゴルゴタと呼ばれている。18 彼らはその場所でイエスを十字架につけた。また、イエスを真ん中にして、こちら側とあちら側に、ほかの二人の者を一緒に十字架につけた。19 ピラトは罪状書きも書いて、十字架の上に掲げた。それには「ユダヤ人の王、ナザレ人イエス」と書かれていた。20 イエスが十字架につけられた場所は都に近かったので、多くのユダヤ人がこの罪状書きを読んだ。それはヘブル語、ラテン語、ギリシヤ語で書かれていた。中略 25 イエスの十字架のそばには、イエスの母とその姉妹、そしてクロバの妻のマリヤとマグダラのマリヤが立っていた。26 イエスは、母とそばに立っている愛する弟子を見て、母に「女の方、ご覧なさい。あなたの息子です」と言われた。27 それから、その弟子に「ご覧なさい、あなたの母です」と言われた。その時から、この弟子は彼女を自分のところに引き取った。28 それから、イエスはすべてのことが完了したのを知ると、聖書が成就するために、「わたしは渇く」と言われた。29 酸いぶどう酒がいっぱい入った器がそこに置いてあったので、兵士たちは、酸いぶどう酒を含んだ海綿をヒソプの枝につけ、イエスの口もとに差し出した。30 イエスは酸いぶどう酒を受けると、「完了した」と言われた。そして、頭を垂れて霊をお渡しになった。31 その日は備え日であり、翌日の安息日は大いなる日であったので、ユダヤ人たちは、安息日に死体が十字架の上に残らないようにするため、その脚を折って取り降ろしてほしいとピラトに願い出た。32 そこで、兵士たちが来て、イエスと一緒に十字架につけられた一人目の者と、もう一人の者の脚を折った。33 イエスのところに来ると、すでに死んでいるのが分かったので、その脚を折らなかった。34 しかし兵士の一人は、イエスの脇腹を槍で突き刺した。すると、すぐに血と水が出て来た。35 これを目撃した者が証ししている。それは、あなたかたも信じるようになるためである。その証しは真実であり、その人は自分が真実を話していることを知っている。



Pietro Lorenzetti 「磔 刑」

まず、3 つある十字架の中央につけられている主イエスに注目します。十字架の上には、INRI（ラテン語の「Iesus Nazarenus, Rex Iudaeorum」の略称で、「ナザレ人イエス、ユダヤ人の王」）とあります。この罪状書きは、十字架刑の際にポンティウス・ピラト（ローマ人）によって主イエスの十字架に掲げられました。ヘブル語（当時のユダヤ人の言葉）、ラテン語（統治していたローマの言葉）、ギリシヤ語（当時の地中海沿岸の共通語）で書かれていたとあります。4つの福音書の中で、この罪状書きに「ナザレ」という出身地が明記されているのはヨハネだけで、その記述がこの絵に反映されています。

主イエスが単独で十字架につけられ、その死に焦点を当てている作品が多い中、聖書にはこの絵のように主イエスの右と左に一人ずつ十字架につけられていることが語られています。さて、では、この二人は誰なのでしょう？ 上記の福音書には、「こちら側とあちら側に、他の二人の者を一緒に十字架につけた。」とあります。よく見てみると、そのうち主イエスから見て右側の人、つまり絵を見る私たちから見ると向かって左側の人にも、主イエスと同じ頭部を囲む光輪（尊い人、聖人のみに示される）が描かれていることに気が付きます。それでは、違う福音書を見てみます。

ルカによる福音書第23章32節から43節

32 ほかに二人の犯罪人が、イエスとともに死刑にされるために引かれて行った。33 「どくろ」と呼ばれている場所に来ると、そこで彼らはイエスを十字架につけた。また犯罪人たちを、一人は右に、もう一人は左に十字架につけた。34 そのとき、イエスはこう言われた。「父よ。彼らをお赦しください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです。」… 36 兵士たちも近くに来て、酸いぶどう酒を差し出し、37 「おまえがユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ」と言ってイエスを嘲った。38 「これはユダヤ人の王」と書いた札も、イエスの頭の上に掲げてあった。39 十字架にかけられていた犯罪人の一人は、イエスをののしり、「おまえはキリストではないか。自分とおれたちを救え」と言った。40 すると、もう一人が彼をたしなめて言った。「おまえは神を恐れないのか。おまえも同じ刑罰を受けているではないか。41 おれたちは、自分のしたことの報いを受けているのだから当たり前だ。だがこの方は、悪いことは何もしていない。」42 そして言った。「イエス様。あなたが御国に入られるときには、私を思い出してください。」43 イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに言います。あなたは今日、わたしとともにパラダイスにいます。」

ここには、十字架刑の苦しみの中で、この二人の罪人が主イエスに対してまったく対照的な態度を示したことが明白に記されています。そして、そのような状況下におかれても、主イエスは、揶揄する人々の為の赦しをも神に祈っています。この場面における具体的な対話が記述されているのはルカのみで、この箇所から一層当時の状況や人々の心情をより読み解く手がかりとなっています。

一人の罪人は、議員たちや兵士たちの「おまえがユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ」との発言に同調し、主イエスに対して不遜な態度を示します。（マルコ、マタイも参照）ところが、もう一人の罪人は先ほどの彼とは全く違う受け止め方をします。しかし、その意図は、罪のない主イエスが彼らと同じローマの法律によって有罪となり、刑に処するという事ではないようです。つまり、この罪人の「おまえは神を恐れないのか」という言葉がそれを示しているように、罪を何一つ犯していない主イエスが、神の裁きを受けなくてはならないということです。そのことに気づいた時、彼は同時に自分も神の裁きを受けなくてはならない、そのことに愕然とし、神を恐れる思いが、「イエス様。あなたが御国に入られるときには、私を思い出してください。」という願いに繋がりました。その一筋の希望が自らの目の前に開かれていることを彼はこの十字架の上で見出したのです。そして、それに対する主イエスの彼への返答、「まことに、あなたに言います。あなたは今日、わたしとともにパラダイスにいます。」に集約されています。聖書が語る救いは、死んで「天国」という良い所に行くことではなくて、主イエス・キリストと共にいる者とされることであり、その救いを、即ち彼と共にいるという約束を宣言されたのです。さて、このことを踏まえると、必然的に主イエスと同じ光輪が描かれている人がどちらの罪人か分かりますね。

彼と主イエスの体の色に比べて、もう一人の罪人の体の色は暗い色で描かれています。さらに、彼と主イエスは下を向いている、つまり、死に際して罪が許されるのに対して、もう一人の罪人は、罰を受ける運命に飲み込まれながらも天を仰ぎ、心から神を受け入れない罪を表わしています。ピエトロ・ロレンツェッティはこの絵の中に、聖書からこのほか幾つもの人間ドラマを描き込んでいます。

それでは、次の絵に移ります。今回のシエナ展でメインの画家として数々の作品が展示されていた Duccio



Duccio Buoninsegna 「crocifissione di Cristo」

から、「crocifissione di Cristo」。この絵は展示されていませんでしたが、今回の展覧会で数点が展示されていた作品と同様にシエナ大聖堂の祭壇画の一部です。主イエスの上空を飛ぶ天使達によって、その十字架は際立っています。罪人の一人は主イエスに頭を向けており、もう一人は虚空に頭を向けています。二人の罪人の位置は、十字架の下に描かれている 2 つのグループの配置と呼応しています。これは、先ほどの作品同様、主イエスから見て右側では、静けさの中にマグダラのマリアや弟子たちに支えられる聖母マリアの悲痛な嘆きと深い悲しみが、その一方主イエスの左側では、十字架につけた罪人に動揺した人たちの不穏な空気が漂っている様子が表現されています。人々を正義の者と不正義の者という 2 つのグループに分ける対照的な構図がこの品全体に表現されていて、これは中世の一般的な図像の特徴であり、まさに最後の審判が表現されています。



Agnolo Gaddi 「Crocifissione」



最後に、フィレンツェのウフィツィ美術館で見つけた興味深い Agnolo Gaddi の *Crocifissione* の作品です。私の目を引いたのは、主イエスから見て左側の十字架にかかっている罪人です。天使が罪人に何かを授けている？ いいえ、寓意的象徴で描かれた悪魔が飛んできて、罪人の魂を抜き取っています！（恐）ⁱⁱ

今回は、神が人間に与える救いという旧約聖書の約束が、主イエスによって成就しつつあるという新約聖書の場面を、主イエスの祈りと約束を通して鮮やかに描かれた絵画をご紹介します。最期の時に、悪魔に関わる事だけは避けたいものです。

出典（参考文献） 聖書 新改訳 2017 発行：いのちのことば社
 La Maesta di Duccio di Buoninsegna Luca Betti 2020
 The Metropolitan of Art Pietro Lorenzetti
 Luke for Everyone Tom Wright SPCK 2014 UK
<https://www.nga.gov/research/publications/italian-paintings-thirteenth-and-fourteenth-centuries-0/italian-paintings-thirteenth-and-fourteenth-centuries-scenes-passion-christ-agony-garden-crucifixion>
[Pietro Lorenzetti - The Crucifixion - The Metropolitan Museum of Art](https://www.nga.gov/research/publications/italian-paintings-thirteenth-and-fourteenth-centuries-0/italian-paintings-thirteenth-and-fourteenth-centuries-scenes-passion-christ-agony-garden-crucifixion)

1 マタイ 27 章 42 節、マルコ 15 章 31 節。ヨハネ 記載なし

2 同じ罪人の頭上を悪魔が飛んでいる作品

<https://www.nga.gov/research/publications/italian-paintings-thirteenth-and-fourteenth-centuries-0/italian-paintings-thirteenth-and-fourteenth-centuries-scenes-passion-christ-agony-garden-crucifixion>

ポップ・アーティスト ハタヤマ氏

クレア恭子

二水会部からメールで講演の案内が届く。「ポップアート・アーティスト」のマサオ・ハタヤマ (Mr) のオンライン講演とある。‘ポップアート’ とは？疑問のまま私はチャップリンを彷彿させる黒い帽子を被った若い男性の写真と‘ロンドン風景’と 題目付きのマンガのようなカラフルな絵を見て弥次馬根性で参加の返事。

絵画・アートは 私の最も不得手とする科目で小学校時代の‘新緑 絵を描く会’は苦手そのもの。毎年苦痛の 1 日だったし、展覧会見学では何を見てもよく分からない。だから、あまり期待もせず当日を迎えた。



事前に送られたハタヤマ 氏の略歴によると、1976 年元旦に大阪で出生。確かに画面越しのご本人は大阪弁で、関西出身の私には 会話の流れが心地良く耳に響いた。

幼少時から絵が好きで小学生時代から漫画家志望、佳作入賞も多い。ご本人によれば 色が大好きで、すぐ浮かび上がる。絵具より簡単に絵が描けるパソコンを利用して作品を制作、と聞くと、英国絵画の巨匠、David Hockney を思い出す。

I pad 片手に Hockney が絵を描く様子をテレビで見て、そんな事もできるのか、と驚いたがハタヤマ さん、貴方も！と 斬新な方法を積極的に取り入れる現代の画家が日本にも居た、と嬉しく思う。

20 代をハタヤマ 氏は‘人生のどん底時代’と表現、会社員となったが独学でアート活動を続け、28 歳で“ハタヤマ マサオ”を名乗り、30 代でポップアート・スタイルを確立。「路上販売が結構売れて！」と 自慢気だったが、ハイドパーク等当地ではよく見かける光景だが、日本では勇気と才覚が必要だった事、と想像する。甲斐あって百貨店での販売に繋がり、40 代には大阪心斎橋にギャラリーショップを開店、大きなビルペイントや日本初のアート観光船 “Hata Popliner “ の屋根を独り描く姿の写真。暑そうな太陽の下、よう やらはる！ と私は感嘆。

次回 里帰りの折には 大阪へ出かけて 氏のポップアート・ビルや船を見学したい、と思う。

ロンドンは何論、パリ、ミラノ、バルセロナ、ニューヨーク、ドバイ等 実に势力的な活躍。Instagram Hatayama Masao に立派な記録と案内が掲載されている。



なるほど、ポップアート、大衆好み・年齢を問わず、見た人が笑顔になる可愛い図柄、絵だけではなく、アクセサリや飾り物等 ちょっと持ちたい気分になる品もあり、抜群の商魂、自伝：「ポップ・アートで世界を HAPPY にする男」のタイトルに相応しく、‘元気で ようやらはる！’ 5 月・6 月は 東京日本橋、大阪大個展、ピンクのウサギに 猫 あるいは クマかな、思わず 抱きたくなる絵が並び、見る人が HAPPY になる楽しい図柄の各種が拝見できる。

最近 あちこちで争いが始まる、激化する、さらに大型の事故発生等 ニュースは暗いが、様々な明るい色を使い、見た人に笑顔が生まれる ハタヤマ ポップ・アートの世界、とても気に入りました。

ハタヤマ さん、応援していますヨ！

そしてきっかけを作って下さった 二水会部の講演会、感謝しています。

(2025. 6. 17)

色々な色のお話

内田みつえフィンチ

この度家の改築につき、多種多彩な色を考える時間を頂いた。これまでは色と言えば図工、美術の時間、そしてファッション、小物、カーテン選びの時に考えはしたものの、家中のペンキの色を其々の部屋に沿って選び決めていくという作業をしたのは初めてのことだ。

そして夢に Dead Salmon、Oxford blue、Bancha, Acid Drop, Stony Ground, London Stone,



ソフィア王妃芸術センター

Matchstick, と渦巻いてでてきたのだが、まだまだ何と 132 のペンキのシングルカラーがあるのだ。これは今回私がお世話になった Farrow & Ball というブランドのペンキ屋さんで見つけた色の名称だ。最初はインターネットで探し、やはり本物の色を見るために Black heath のお店に足しげく通った。たまたま

旦那さんが日本人というショップマネージャさんに出会い、とても親切、そして割引もしていただいたのだが、何しろ 5 リットル入り 1 缶が 100 ポンド以上もするのだから、今回家のペンキ代だけでもご想像にお任せしたい。

さて、私が今回選んだペンキの色をざっとご紹介しましょう。

まず、キッチン・ダイナーの部屋は、キッチンユニットを **Quince** (花梨) 色、キッチンダイナーの壁は **Church Green**、天井は **Green ground**、Living room は **Hay No37**、壁/天井は **Farrows cream**、玄関の Hallway ceilings は **Book room red**。壁は **Templeton pink**、Hall way の wood work (Wardrobe) には **Oxford stone** (Eggshell)、Guest bedroom には **Tallow**、Master ensuite は **Oval blue** を壁の色とし、そして寝室は、微妙なグリーン系で統一した。それは主人の好きな色でもある。まず寝室の Wardrobe は大工さんの手作りで、お部屋の殆どをしめ、**Beverley** という色に。Dressing room Ceiling は **Berte De Terre**、Master bedroom wall は **Yarbridge green**、Study room は **Bancha** に。「番茶」とは何と渋いグリーン色で、かなり暗い色になったが、それはそれでとてもスマート感が出て私は満足。

何とか以上の色が決定はしたが、それ以前は日々夢にこれらの色が沢山出てきた毎日だった。そして頭の中は色が乱れてとはいっても破廉恥でも不謹慎でもなく、色たちが呻き合い、それぞれが話し始めるのだった。私は混乱状態に陥入り、気持ちいが乱れ、何が何だか分からなくなり收拾がつかずにいたが決心しなければならぬ、もうどうにでもなれ~という思いに駆られるも、これからの余生にこの色たちとお付き合いだと思ふと真剣に選ぶ必要がある。でも多少の遊び心は入れた方がいいかと。でも出来上りは如何せんと本当に「でも、でも」と堂々巡りをしたが結局上のような色選びとなった。

そして休暇でスペイン・マドリッドに行った時に私の家のカラースキームのオブジェをアートギャラリーで見つけて感動した。また私の家のデザイナー兼プロマネのヘレン女史から、「Well done !!」と称賛をうけた。というのも今までの常識破って、其処かしこに私は多種多彩な色を使ったのだった。そして、それぞれがうまくハーモニーを奏でてくれ、一見不調和とも思える色合いが其々と調和し色の協奏曲を奏でているようで、ヘレンさんも喜んでくれた。こじつけた様な定義かもしれないが、「不調和がかもし出す調和」。そして、結論として、多くの色を使ってみるという冒険には絶対に失敗は無いのだと自分なりに悟った。

ここで私が使った F&B のペンキの色の一部の名前の由縁を記すと、

Oxford stone : 「オックスフォードシャーの美しいコッツウォルズの村々にあるコテージからインスピレーションを得、ウォームニュートラルの中でも最も濃い色で、**ジョアズホワイト**や**ディミティ**と組み合わせることで、シンプルなニュートラルカラーのコーディネートを演出でき、温かみと比類のない深みを湛えたオックスフォードストーンの繊細な深みは、木部や壁全体に広がり、土臭く高揚感のある仕上がりを生み出します」とあり、次に

Yarbridge green : 「この爽やかなアボカドグリーンは、サマセット州イェブリッジにある 18 世紀のジョージアン様式の農家で、元の銃器棚が撤去された際に発見され、長年手つかずのまま残っていたにもかかわらず、驚くほど鮮やかな色彩を放ち、家の周囲を青々と茂る芝生を彷彿とさせ、このシンプルでクリーンなグリーンは、現代的な空間にも、時代を感じさせる家屋にも違和感なく溶け込む。**ブレックファストルームグリーン**より少し黄色味が強く、**チャーリッシュグリーン**よりは少し黄色味が抑えられ、**ヘイグブルー**と組み合わせることで、真に気分が高揚するインテリアを演出できる。」とある。



Yarbridge green

Oxford stone

Book room red

そして **Book room red** についての説明は ; 「F&B の赤の中でも最も落ち着いた色合いで、濃い色の赤で圧迫感を感じさせない、小さな空間に特に適している。英国の大邸宅によく見られる読書室や小さな書斎にちなんで名付けられたこの色は、古びた雰囲気醸し出してくれ、アーカイブカラーはすべてお客様専用オーダーメイドで製作されるため、返品はできず、プロジェクトに最適な色合いを選ぶために、オンライン限定でアーカイブカラーの見本サンプルをご用意しています」とのことでした。

さて、皆さんもこれから家の改築で色選びをする際は、色気を出して、いろんな色と恋をして不倫をしても結果的にはうまく調和し鞘に収まる。自分の選んだ色は裏切らない！！ということを信じていいのではないだろうか。でもお気に召さない結果となった時、私は責任は取れませんので、その時は私を恨むのではなく、選んだ色か選んだご自分を恨んでください〜。

注 : (太字のカタカナ表記は皆 F&B で販売されているペンキの色の名称です。)



ロンドン生活 今年で 50 年 (その 2)

田村陽子

春号に同じタイトルで投稿した頃 私は元気一杯でした。あれから 2 カ月程経った頃 私の体調に異変がやってきた。それは 6 月半ばの夕方頃でした。何だか頭が重いような変な感じがしたのです。風邪の前ぶれかな？と思い いつもの風邪薬を服用し床につきました。でも翌朝やはり頭がズキンズキンしているのです。もう一錠服用。そして 6 時間おきに欠かせなくなったのです。薬の副作用の事が心配で GP に。するとドクターはそのパラシタモールは好きなだけ服用しても問題はない。そして私の頭痛は、吐き気も、視覚障害もないから心配ない、と。私は信じられないので念のため病院のウォークインにでむいた。そこでは血圧を計ったり色々検査をしてくれ、大して心配はない、と言うのだ。しかし私の頭痛は一向に治まりません。すでに 2 週間以上続いているのです。



再度 GP へ出向き MRI を取って欲しいと伝えると "その必要はないと思うが、私が安心するならばアレンジしましょう" と言って下さり 4 週間後の 8 月 3 日にアボが来た。4 週間!長かった!でも MRI が

決まったその日から痛みが緩和してきて薬は1日一錠ですむようになったのだ。しかしそれに変わって別の問題が。それは朝起きると首のコチンコチンに凝り固まって右にも左にも動かせない。GPは全く深刻そうでは無く、首の体操を図に書いたものを見せてこれを毎日実行しなさいと。やってみたが中々楽にならない。



そうこうしている内にこんな事が起きるずっと前に予約していたドイツ3泊4日の旅の出発が近づいてきた。こんな状態で飛行機に乗れるのだろうか心配になりドクターに訊ねると、"No problems!" それで旅行保険もかけずに出発！無事にドイツに着き楽しい4日を過ごす事が出来た。さて最後の難関、E-visaの

問題。私は去年手続を開始したが未だ完了して無いのだ。今回ヒースローを無事に通り抜ける事が出来るだろうか？

自動ゲートに来てパスポートを台に載せると私の顔写真が写りゲートはスッと開いた。熱を計る「ヤッター！」と言う爽やかな気持ちだった。6年ぶりの海外旅行をした田舎者の感想でした。

あれから2週間が経つが首の痛いのに加えて股関節と腰が痛み始めた。全く思いもしなかった事が次から次に起こり老境に入った事を認めざるを得なくなってきた。今後の課題はE-visa取得を福祉部の方々の助けを借りて完了し、来年は6年ぶり！の日本旅行を楽しみたい。その為に今かかえている健康状態が改善されますように！ 読者の皆様、私の為に祈ってくださいね。



我が家の庭

石山 望

私の家には、庭があります。「ネコの顔」よりは大きいです。まあ、「、の顔」くらいでしょうかね。小さいながら、噴水が2つあります。また夜になると、Spotlight形式の灯り12基が一斉に点り、その



うちの2基が灯籠を浮かびあがらせると、本当に綺麗です。特に夜が暗い冬の時期がそうです。公称「日本庭園」、したがって、色はほとんど全て「緑」です。植っているのは、熊笹、しのべ竹、桜、紅葉の木、そして、4本の泰山木。今まで、藤もあったのですが、その伝う柵が壊れた為、もうありません。このように、私が好む樹木は、東洋のものなんですね。泰山木は、今のところ、私の背の高さくらいですが、すくすくと育っています。でも、この木、いくらでも大きくなるんですってね。そうならないで欲しいですが。

植っている樹木は、その程度で、皆お隣との境界線の塀にへばりついてます。あとは、空地ですが、石畳か、砂利、または、パネル形式の木板が張り詰めてあります。そんな程度の「ネコの顔」ですが、私。とても気に入っているんです。庭は、屋外の大きな部屋だと思っていますから、ここでいただく食事なんて最高です。理想的には、池が欲

しかったのですが、皆さんから、矢の反対。「絶対に後悔するから、」ですって。とにかく、何か一つ、庭の中に「動いている」ものが欲しかったのですね。

と言うわけで、妥協案として、「Bird Feeder」を取り付けました。野鳥を呼び寄せるための「餌やり機」です。鳥が、私の家に、沢山くるなんて、楽しいではありませんか。設えてから二ヶ月以上。やっと、小鳥が来てくれるようになりました。ただ、来てほしくない方々もおられるんです。「どうぞ、ご自由に、いくらでも。ただし、体の大きい方はご遠慮ください。」こんな張り紙をしたのに、そんなことにはお構いなし。どうやら、鳩さんは、そういうことには目を向けられないようです。私の観測が、まるで「甘ちゃん」というわけ。あああ、まあ、最真目に見て、鳩さんたち、「チンドン屋」としての役目にはた

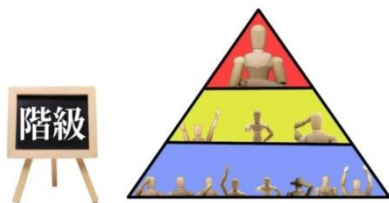
っているのかもしれませんが、ハイ、。

インドに行ってきました

私、これまでの人生で、日本と英国以外の国に行った経験は、それほど多くありません。でも、英国に住んでいるのですから、ヨーロッパの国ならば、まあまあ。しかし、アジアの国ということになりますと、本当に少ないです。そういう状況で、最近アジアの国、それも大国に行きました。2週間。インドです。一度は是非行ってみたいと思っていた国。しかし、これまで機会がありませんでした。それがたまたま、私の友人に、インド生まれ、インド育ちという英国人のお方がおられて、このお方は、毎年、2週間ばかり、インドに行かれますから、私、そのお方と一緒したというわけです。私より年配の、元宣教師。お元気です。彼の後に付いていったというのが正直なところ。そのお陰で、気楽でしたが、私一人だと、大変だったと思います。まあ、総体的に言って、インドに行ったことは、いい経験でした。

人間、どこかに旅をして、「感動した」と言えば、何か美しいもの、壮麗な物を見て、または奇異な経験をして、とのことだと思います。今度、インドに行って、“感動”したことはいくつかありました。まず、タジマハール。これは、観光客ならば、必ず行くもので、ある王様（マハラジャ）が、亡きお妃のために建てた、慰霊廟です。広大な土地に実に壮麗なものを建てたのですが、そのために、多くの、か弱き一般市民が犠牲になったのであろうと思うと、また行きたいとは思えませんでした。しかし、それより、もっと感動したことがあります。しかも、そのタジマハールとは正反対の状況においてです。ご存知かと思いますが、インドには一握りの富裕層と、次いで、多くの中間富裕層、そして、さらに実に多くの貧困層と言われる方々がおられます。これは、今も厳然とあるカースト制度と関連しているのかもしれませんが、私、その、貧困さという点で、まさに社会の底辺におられる人を見たのです。所有物無し。暑い国におられるのですから、家と呼べるほどのものもありません。ただ、家族と一緒にいるだけ。それが人生です。そんな人もおられるんですね。ただ、陰鬱な感じはありませんでした。

私、今度の旅行で、いろんなインド人に出会いましたが、皆さん気持ちのいい人ばかりでしたよ。大抵の場合、大家族で住んでおられます。したがって、どの家にも可愛い子供さんがおられるんです。明るくって、行儀のいい、躰の行き届いたいい子供ばかりでした。インドは、多くの国と国境を接していて、



いろんな人が入って来る多民族国家。しかも多言語国家です。その上に、永らくイギリスの植民地であったこともあって、多くの場合、英語が通じるんです。中には、英語が第一言語だという人もおられます。私、そういう人に出会いました。しかもその人、日本人みたいな顔をしておられるんです。これには、少なからず、びっくり。日本で、「日本人です」と言われても十分通ります。何

でも、インド東部の山岳地帯、ミャンマー（ビルマ）と国境を接するところに、こういう人たちがおられるんだそうです。34歳。結婚しておられて、小さな子供が一人。真面目な人で、将来、ちゃんとしたキリスト者になって、多くの恵まれない人を救いたいんだとか。それにしても、インドでは、どうしてあんなに、ものが安いんでしょうね。最後の日に、散髪をしましたが、50円ですよ、50円。そんなにものが安いと、一般インド人の収入が多くはないですから、税金など取れないではありませんか。それが、原因かどうかは知りませんが、田舎道、舗装がしてあるとは言えません。とにかく、ガタガタ。また、一般のインド人は、外国旅行に行くなど、とんでもないんですって。なにか、抜本的に、国力をあげる手はないのでしょうか。帰ってきて、インドの道路交通の無法性が思い出されます。交通規制ってないに等しいんです。そして、絶えず耳にする、自動車の警笛音。プップー、プップー。天候ですか？私が滞在した2週間は快晴続き。一片の雲もありません。雨季以外には雨が降らないんです。いい様なものですが、その所為で、土壌がカラカラに乾いているため、何か全てのものが、カサカサした感じ。そんなに美しいとは思いませんでした。最後に、。インド国内での移動手段は、3度とも飛行機。一緒に行った牧師さんの言では、汽車のほうがはるかに面白いよとのこと。さて、さて？。

パトリック・モディアノ

「暗いブティック通り」 Rue des Boutiques Obscures (1978)

原田孝雄



フランス文学は日本人にとって世界文学全集などでお馴染みである。バルザック、デュマ、ヴィクトル・ユーゴー、フロベールは必ず入っている。19世紀から20世紀初頭までは世界最大の文化都市、世界中からパリを目指して芸術家が集まり、パリで活躍した画家たちはエコール・ド・パリと呼ばれた。20世紀から国の文化度を測る尺度としてノーベル賞が使われるが、文学賞だけに限定すればフランスは15人、アメリカ合衆国の11人、イギリスの10人を大きく凌駕している。モディアノは2014年にノーベル賞を受けている。「暗いブティック通り」Rue des Boutiques Obscuresはこのフランス人作家の第6作目の小説でフランスの芥川賞に当たるゴンクール賞に輝いている。パリの書店でゴンクール賞と書かれた帯を見てとにかく買っておいだ1978年初版はペーパーバックなので、マージン部分が広く字も大きいサイズなので読みやすい。文字でぎっしり埋まったページは少なく、登場人物同士の会話が半分以上あるので、中級レベルのフランス語が出来れば読みこなせる。但し小説本来の叙述文になると動詞活用が複雑なため辞書の活用表がないと前に進めない。この小説が斬新なのは過去の物語を過去のある時点から始めるのではなく、現在から徐々に過去にさかのぼる探偵小説の手法を普通の小説に適用したところにある。

主人公ギー・ロランはこれまで8年間パリの私立探偵事務所に働いていた。所長がニースに引退するところから物語が始まるが、彼は10年前に記憶喪失にかかっており、自分の名前も分からない。ギー・ロラン名は所長のユットが手を尽くして作り上げた名前である。これまで顧客の要請で失踪調査や身元調査を担当していた経験を生かして自らの過去の探求を始める。名前が分からないのだから既にある名簿や電話帳が役に立たない。最初の手がかりはギーを過去に見た人物を探し当てることである。今はバーやレストランを経営している元バーテンダーや、元ホテル従業員に会い、彼が著名な亡命ロシア人のグループと一緒にいたとの証言を得る。その折、新聞広告を見せられ、ある亡命ロシア人の葬儀がパリのロシア教会で行われることを知る。喪主の一人である亡命ロシア人スチョーパがその教会から出てきて乗った車を待機させたタクシーで追跡し、スチョーパとの会見に成功する。スチョーパの写真コレクションの1枚に自分が写っているのを見つけ、一緒に写っているロシア人女性の名前マーラ（米国名ゲイ）・オルロフの身元を教わる。大きな手がかりを得たギーは引退した所長にいきさつを報告し、フランス省庁にコネのある同業者ベルナルディを紹介される。



ベルナルディの調査によると、ゲイ・オルロフは米国滞在中にウォルドー・ブランと結婚後離婚、1936年よりフランス在住、1950年薬物多量服用にて死去。この調査結果の日付は1965年10月なので、この小説は前年の1964年に始まっていることが分かる。が、物語は主人公の失われた記憶を訪ねてさらに10年間遡り、1954年以前が主に語られている。さらにウォルドー・ブランが1952年よりパリでホテル等のピアノ演奏者として生活していると調査にあり、パリ・ヒルトンホテルのバーで演奏しているのを突き止め面談。



ブランによるとゲイ・オルロフの再婚相手は米国滞在中に知り合ったハワード・ド・ルス（姓名）である。ギーは所長から鍵を預かっている探偵事務所の紳士録からハワード・ド・ルスを見つけ面談するが、相手は本人ではなく探している人物の従弟であることが分かる。亡命ロシア人のスチョーパからもらって来た写真コレクションの1枚に写っているのがフレディ・ハワード・ド・ルスで、その大邸宅がノルマンディー南部のオルヌ県にあることを例の従弟から聞いたギーは、そこを訪れると何となく体感で過去に来たことを思い出

す。長期間放置されたその地所は、現在、国の管理下にある。そこで出会ったハワード・ド・ルス家の元庭師から、ギーが大邸宅の持ち主の本人ではないが、その友人で何度もここを訪れたこと、ギーが勤務していたある大使館に元庭師が車で迎えに行ったことがあるなどを教えられる。帰りに若い女性と一緒に写った彼の写真を含めたフレディのメモラビリアの菓子箱をもらってくる。その菓子箱に入っていた若い女性の写真の裏にある電話番号の住所を調べて訪れてみると、そこには写真に写っていた女性の友人が住んでいる。彼女は、写真に写っていた女性をドニーズ、ギーをペドロ・マカヴォイと呼び、以前この住所に2人が住んでいたことを確認する。そして彼女からドニーズが残した探偵小説と手帳をもらってくる。手帳にはパリ区役所1939年7月発行のドニーズの戸籍抄本が入っていて、この年の4月にペドロと結婚していることが判明。ベルナルディの調査レポートによると、「ペドロ・マカヴォイはドミニカ国籍、1940年12月パリのドミニカ大使館に勤務、その後消息不明」とある。



少々脱線するが、1939年と言えば2人の結婚から数カ月後の9月に第2次世界大戦が勃発。翌年6月にパリ陥落の後、7月に南部のヴィシーを首都とする対独協力主権国家が成立、パリやフランス北部はドイツ占領下に入っている。第1次世界大戦で、4年の歳月と膨大な犠牲を払っても達成できなかったフランス支配を、短期間の戦闘で達成し、国境地帯のアルザス・ロレーヌばかりではなく、フランス軍の装備をほとんど手中に収めた1940年はナチス政権の人気絶頂期でもある。

本題に戻り、戸籍抄本にあるドニーズの出生地をギーが訪れると、そこはカフェの3階で初老のカフェの主人からドニーズの思い出を聞く。彼女がファッション・モデルとして表紙を飾っている雑誌を借りる。その雑誌には写真家の名前が記載されていたので、ギーがモンマルトルに住む写真家を訪ね、ドニーズと彼がモンマルトル近くのアパートマンに住んでいたことを確認。この時点でギーは既にドニーズとの初めての出会いや、モンマルトルのカフェでドニーズを待っていた状況などを思い出す。

そして探偵事務所の所長とよく立ち寄ったバー・デリカテッセンで、ギーは偶然、2人目の生き証人のアンドレ、彼はフレディ・ハワード・ド・ルスの祖父（彼は競馬マニア）の持ち馬の元騎手と出会う。半信半疑で近づいてきた騎手をギーは最初認識できなかったが、彼の回想から、ゲイ・オルロフとフレディの結婚式の様子や、また、ギーとドニーズの2人は、ギーのドミニカ大使館の友人が発行してくれた外交官旅券で、パリから国境の町ムジューヴに逃避してスイスに向かおうとしたことを知らされる。このあたりから徐々に記憶はもどってきて、不安に怯えながらドニーズと待ち合わせたことや、金貨や宝石を売却したことなどを思い出す。真冬のパリ・リヨン駅からのこの英国人騎手を含め5人の逃避行、ムジューヴでの生活、ギーとドニーズは国境越の詐欺に引っ掛かり、雪の中で意識を失ったことを次々と思い出す。その詐欺犯の一人は事故死、もう一人は消息が分からないという。フレディ・ハワード・ド・ルスは戦後南太平洋の島に移住と聞いたので、ギーが訪ねてみると、フレディは既に帰らぬ人になっていることを知り、この小説は終わる。

モディアノは読者を退屈させないように、それぞれの調査の局面でコミカルなシーンを各所に用意している。たとえば、

- ・主人公を過去に見たことがある元ホテル従業員が経営するレストランの別室で進行中の乱交パーティー。
- ・背の高い亡命ロシア人スチョーパのアパートマンの天井が低いので、主人公との会見は長椅子に横たわって、「まるでアヘン吸引者同士が横たわっているような姿勢」で行われる。
- ・ウォルドー・ブランドが凱旋門近くにあるアパートマンに主人公と帰ってきたときに目撃する彼の若い妻が催す乱痴気パーティー。
- ・フレディの従弟の仕事は、ミシュラン・スター印ランク付けのような料理評価で、いやいや料理を賞味しないといけないう苦痛を訴える。
- ・ドニーズの思い出を語る初老のカフェの主人は少女時代のドニーズに対する執着を見せ、彼女がモデルである表紙の雑誌を宝物のように大切にしまいでいる。
- ・モンマルトルの写真家は、ドニーズの住所から、同じ住所の一階上に住んでいた彼の友人の部屋で写真が撮影されたことを思い出す。また彼は、自分の友人がその部屋で殺害され、同じ殺人犯がモンマルトルの他の事件にも関与しているのを知り、事件のあった街を通るたびにいまだに怯えている。そして、何重にも鍵をかけた自身のドアを開けるのに一苦労し、訪れたギーと一緒に強い酒を飲まないで当

時の話が出来ない。等々で、登場人物たちは非常に細かく観察され、表情、思考過程の描き方は見事である。

自らの過去の探索が難航するのは、その軌跡を証言できる人がほとんど死去してしまっているからである。子供の頃からの学友フレディとその妻ゲイ・オルロフ。自分の妻ドニーズ（現在は行方不明）。抜き打ちの身分証明書提示から身を守るため、ドミニカ共和国の旅券を発行してくれた友人で外交官のルビローサ（自動車事故）。物語の展開は主人公の過去と同時に第2次世界大戦中のドイツ占領下のパリの行き場のない焦燥感を浮かび上がらせる。

ゲイ・オルロフが共産主義ソビエト連邦から脱出した亡命ロシア人を両親に持つ無国籍者であるのと似て、主人公のギー・ロランは、ギリシャ、サロニカでの出生戸籍は、第1次世界大戦中の爆撃で記録が消失。友人のドミニカ共和国の外交官が提供してくれた、出入国管理のスタンプがないペドロ・マカヴォイ名の旅券で戦中生活していたのである。身分証明書の抜き打ち検査で、拘束されれば収容所送りになるのは確実である。

大多数の人は過去に対してそれぞれ思い入れがある。自らの輝かしい過去持つ人はそれを他者からも祝福してもらいたいと思う。戦前は有名な競馬騎手アンドレは今では乗馬術の教授になり、バーで昔馴染みのペドロ（ギー）と25年振りの再会にもかかわらず、それを中断してまで、他の騎手仲間と酒を飲むことをありがたがる。苦い過去を持つ人はそれを忘れようと努力する。亡命ロシア人スチョーパは悲しい思い出を語ったあと写真コレクションをすべてギーに提供する。初婚の妻から才能あるピアニストとしての将来を期待されていたにも拘わらず、バーのピアノ弾きに成り下がったウォルドー・ブランドは語りたくない過去をギーに聞かれてぎょっとする。友人が殺害されたという忘れてしまいたい過去に怯える写真家。物語の初めに元所長のユットは過去を掘り下げることが何の役に立つのかとギーを諭す。しかし、生まれ故郷ニースに引退後は

Vous aviez raison de me dire que dans la vie, ce n'est pas l'avenir qui compte, c'est le passé. 「人生で重要なのは未来ではなくて過去」とするギーの意見に同意する。



このユットのメッセージは多分作家自身の人生観なのかもしれない。モディアーノはいくつもの作品で占領下のフランスを描いている。フランスは第2次大戦初期に、前の大戦で活躍した英雄ペタン元帥が抗戦を主張する当時の大統領を失脚させ、ドイツと休戦協定を結び、ボルドーに移転されていた首都をさらにヴィシーに移した。無防備都市宣言をしていたパリは無血開城された結果、ロンドンのような戦災にあっていない。

第2次世界大戦終戦間際、パリ担当のドイツ軍将軍は連合軍から戦後良い条件を引きだす算段でパリを焦土にしなかったため、この物語の進行時である1965年といえ、大戦中のパリの情景と大きく変わっていなかったようである。登場人物たちが *‘époque du Tanagra(遙か昔のタナゴラ時代)’*, *‘une drôle d’époque(奇妙な時代)’* と呼んだナチス・ドイツ占領時代を独自の方法で描きだした点をノーベル文学賞審査員が称賛したのかもしれない。

英語訳「Missing Person」、日本語訳「暗いブティック通り」が出版されている。日本語訳の帯には有名な韓国ドラマ「冬のソナタ」が影響を受けた小説と書かれている。



Dollis Valley Greenwalk

散歩道 レポート 2025 年

須永静江

私は、3 年前(2022 年)に、同じ題名のエッセイを「英国春秋」に載せて頂いた。
これは、それに続くものである。

3 年前のものを読んで思い出すのは、2020 年は、コロナウイルスが猛威を奮った年で、イギリスでは、春から夏に掛けて、国中、厳しいロックダウン令が敷かれ、ルール違反者は、テレビなどの大きなニュースに取り上げられ、警察に捕まり罰金を払わされたり、lawmaker である政治家が規則を破れば(break the rules)、悪評高く締め上げられて、辞めさせられたりした時である。振り返ると、2020 年の夏は、ロンドンに快晴に恵まれ、暑い太陽が照り付ける、夏としては申し分のない天気が続いた。

記録によると、私の大好きな ‘oak trees (樫の木)’ の ‘mast year’ (マスツ・イヤー) は、2020 年だったようである。そして、本年、2025 年は、どうやら、それに次ぐ ‘mast year’ であるのかも知れない。7 月初旬の現在、今年も、小鳥たちの歌声が森から次第に消えつつある頃、散歩の途中でふと見上げる樫の木の葉の間から、ヅラヅラと緑色の実が連なりになっているのが見える。喜んでくれるのはどの動物だろう？ 芝生や、木の梢に、森鳩 (wood pigeon) や magpie (尾長) の姿は目に付くが、それとて、多数と言うほどでもなく、春の間走り回っていた数匹のリスたちも、この所、暑く、乾燥しているせいか、姿を見せなくなった。カラスとて、先年、mast year の翌年 (2021 年) に、Barnet 界隈の樫の木に、樫の実 (acorn ・エイコーン) が一つも実らなかった年に、いっせいに姿を消してしまった。この 100 羽を超えるカラスの大家族は、その後、この地に戻って来る気配はない。現在は、せいぜい、こちらの緑の広場に数羽、林に区切られた、あちらの緑の広場に数羽、両手で数えられる程度の数しかない。よく見ると、これらのカラスは、新しい家族らしく、心持ち小さな体型の子カラスが、キーキーと心持ち大きめな体型の親カラスに餌をねだっているようだから、全くの、新参加者か、消えた大家族の末裔なのかも知れない。しかし、カラスが、「どんぐり」を好んで食べるとは思えない。

樫の木の mast year は、5～10 年の周期だと言う。2020 年のイギリスの春の気候を私は覚えていないが、夏は確かに、今年のように暑かった。それに、今年の春は、例年になく、暖かかったと報道されている。樫の木が、数年がかりで蓄えたエネルギーを、5 年～10 年の間に、自分たちにとって良い気候条件の年が巡り来ると、「今年こそ！」と、どの木も、いっせいに、ドッサリ実をつけるのであろう。樫の木やブナの木が周期的に大量に実を付ける理由は、前項で書いたので今回は省略する。



この冊子が発行される頃には、森や林の散歩道に、足の踏み場のないほど、樫の実 (どんぐり) が落ちている事だろう。滑ってコロリン、と、怪我などしないようご注意ください！





英国春秋歌壇

バロー典子

秋の訪れ

さまざまな 人種と言葉が 行き交いて
大都市ロンドン 歯車まわる

ゆさゆさと 巨木のみどり景 ゆるがせて
5月の風の いまだに寒し

みどり樹の 豊かに茂る 公園に
散策びとの 姿増えゆく

枝々の 隙間に見える 青空を
日々に狭めて 夏は来にけり

一家して 夏の田舎の ドライブは
グリーントンネル 数えて遊ぶ

風そよぎ 樹々もそよぎて 見上げれば
空の青さと 雲の動きと

みどり景の 中に黄色も かわりて
秋の始まる 気配告げおり

早朝に いまだに光る 星ひとつ
冷気さやけく 秋の訪れ

秋来なば 散歩の折の 楽しみは
落ち景の上を 音して歩く

長生きの わが人生の 喜びは
すくすく伸びる 孫との遊び

ふるさとと 同じ四季ある 英国を
終の住み家と するは幸せ



ふうちゃんのお手伝い～DIY編

© Miki Milroy





ふうちゃんのお手伝い～ガーデニング編

©miki wilkoy



※ちなみに
うちでは庭用
犬よけパウダーは
全然効きませんでした



Desert Island に持って行きたい1冊の本 （「ベスト・オブ・マイ・ラストソング」）

園部健治

これまではテーマを離れ、その時々で感じていたことを寄稿させていただいたが、今回のテーマには惹かれるものがあった。

というのも、今回の英国勤務に際して、これまで読んだ本の中で、もう一度読んでみたい、そして、これまで読んだことがないが読んでみたいと思っていた、自分なりに、それこそ“選りすぐり”を持ってきていたからである。それでも、何度も読みたいと思う本、実際に何度も読んでいる本に巡り会ったことはこれまで数えるほどしかない。

とすれば、まさに今回のテーマにピッタリ合うものであると思った次第である。そこで、実際に Desert Island に持って行きたい本が今回持っている本の中にあるかということになるが、答えは“YES”である。



その本は今回のテーマと似ているところがあるが、“死ぬ前に最後に聴きたい曲が一曲あるとすれば何か”



をテーマに綴られたエッセイである。作者は久世光彦氏（故人）。名前を聞いただけではピンとこなくても、「寺内貫太郎一家」、「時間ですよ」といったTVの名作ドラマを数多く手がけた演出家・プロデューサーといわれれば、その番組をご存知の年代（以上）の方（失礼！）には、それだけで興味が引かれるというものではないだろうか。

この本は、その久世さんが、今は廃刊となった文藝春秋の月刊誌（『諸君』）に連載していたもので、連載当時から毎月楽しみにしていた。その連載のタイトルは「マイ・ラスト・ソング」であり、持ってきた本のタイトルは、そのものズバリ、「ベスト・オブ・マイ・ラストソング」。生前、久世氏と親しかった小林亜星氏（故人）、小泉今日子（キョンキョン）氏が編集したベスト版（52編）である。

歌謡曲で育った世代からすれば何とも懐かしく、思わず口ずさんでしまう曲満載である。一方で、まさに戦前・戦中・戦後の昭和からの選りすぐりであるだけに、その曲の（時代）背景もわかる何とも贅沢な本であり、繰り返し読んで飽きないのである。

歌は世に連れ、世は歌につれと言われた時代を懐かしく思い出しながら、その曲を YouTube で聴いたりすると、何時までも聴いていられる。Desert Island では YouTube など見られない前提であろうから、その曲を持ち歌とする歌手の歌いっぷりを思い出しながら口ずさむことになるのだろうか。本に留まらない二重の喜びを与えてくれる貴重な本ということになる。

今回の寄稿に際し、改めて再読（実際は斜め読み）したのであるが、その中で目を引いたのが、今年の春のヘンドン日本人墓地の清掃・供養の最後に参加者で合唱した「朧月夜」にまつわる一遍であった。少なくともこれまで参加した清掃・供養後に合唱していたのは「ふるさと」であったが、その時は「朧月夜」であった。久世氏の本の中では、小学唱歌として取り上げられている編の中の一曲に「朧月夜」がある。敗戦後、釜山からのすし詰め引揚船の中で、食物をめぐる何人かの男たちの間で喧嘩が起こり、今にも血を見るという時、両目を汚れた布で覆ったお婆ちゃんが呟くように歌い出したのが朧月夜であり、周りの何人かがそれに合わせ、やがて歌声は船内の隅々まで広がり、二番が終わって一番に戻り、エンドレスに続いたとの内容であった。久世氏は、「朧月夜」が終わったら、「ふるさと」になり、さらに「春の小川」になったのではなく、「朧月夜」だけが繰り返し歌い続けたところに、よくできたような話だが本当にあった話であり、真実味を感じると書いている。見えない目の裏にお婆ちゃんが思い描いた日本の原風景が「朧月夜」であり、この歌は、そういう歌なのだと結んでいる。何となく分かる気がするのだが、残念ながら、その通りと確信を持って言い切れないというのが正直なところであり、それが今の私である。

それでも、「朧月夜」には個人的な思い出がある。小学校の音楽の授業（テスト）であったような記憶な

のだが、「朧月夜」を歌ったのである。歌でもオルガンを弾いてもリコーダー（たて笛）を奏でてでも何でもよいので、何か一つ自分で選んでテストを受けることになった（現在、小学校の音楽のテストが、このような方式で行われているのかどうかは分からない）。とても人前で披露できるほどオルガンを弾けるわけもなく、また、リコーダー（たて笛）も得意ではなかったのも、残りは得意ではないが歌うことしかなかった。しかも、通学していた小学校では、クラスの名簿（学籍番号）は氏のアイウエオ順ではなく、生年月日順であったため、4月生まれで1番の私が真っ先にテストを受ける（歌う）ことになった。カラオケのない時代、先生が弾くオルガンの伴奏も何もなく、所謂、“独唱”である。音程は外れていなかった（？）と思うが、声は上ずり、震え、クラスの皆の前で何とも恥ずかしい思いで歌ったことだけは覚えている。歌い終わった後、音楽の先生から褒められた記憶はない。テストだから当然である。今回、改めてその時に何故、「朧月夜」を歌ったのか（選んだのか）について気になったので調べて見たところ、「朧月夜」は小学6年生で習うことになっているということが分かった。というわけで、歌ったのは6年生の時、習い立てのこの歌を選んだのだろう。久世氏の本に書かれていた状況と比べるとなく、また、感傷的になることもなく、特別な思い出があったわけではなさそうである。それにしても、50年以上も前に「朧月夜」を歌ったことなど記憶の彼方に消え去っていたものが、何かの拍子に呼び覚まされ、思い出すことになったわけだが、人間の記憶とは不思議なものであると改めて実感しているところである。



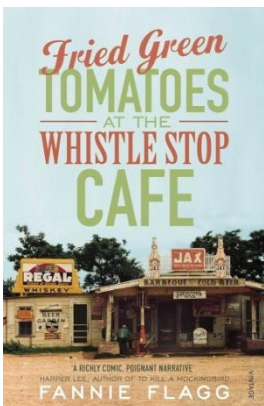
自分が最後に聴きたい歌はあるかと問われれば、いくつもの歌が頭をよぎるが決め手がない。でも、久世さんのエッセイのように自分にとってのラスト・ソング（候補曲）は皆それぞれある以上、それを思い出し、綴るのも悪くない。自分史であり、自分が生きた時代への愛着でもある。

本の話がいつの間にか曲の話にすり替わってしまった。それにしても、本を読まなくなったのは特定の世代に限らないと思える中、そして、それこそ、スマホが必需品とされる世の中で、実際に Desert Island に本を持って行く人がどれほどいるのか気になるところである。スマホは電源が確保され、ネットワークに接続されている必要があるが、電源はそれこそ、ソーラー、風力で確保でき、ネットワークも GPS でどこにいても使用できるような時代になれば、文集部の責任者には申し訳ないが、今回のテーマもいづれ成り立たなくなるのではないかと思ったりもしている。それでも、Desert Island に限らず、本を持って乗り物に乗り、うつらうつらしながら読む、旅行先で読み耽る、寝床で読んでいたらいつの間にか寝てしまっている等々本とともに生きる、そんなささやかな楽しみを絶やさないように持ち続けたいと強く感じる。Desert Island に持って行くのはやはり本が合っている。



離れ孤島に持って行きたい一冊の本

ビドル 恵



聞かれると返答に困る程、好きな本は沢山ありますが、離れ孤島 (Desert Island) に持って行きたい本～となると話は変わります。其処が水も食べ物も少なく、サバイバルを強いられるような所なら、美食や飽食の本は絶対に避けた方が良いでしょう。火を起こす為の焚き付けにするなら、ページ数の多い辞書 (エンサイクル・ピディア全巻とか) が便利だなァ～なんて、阿呆な事を思っています。

そんな状況では無くて、単に「孤島で一人、好きな本を読むとしたら」の話に戻しましょう。私が持って行きたい本、つまり、何度読み返しても飽きない程、

好きな本は、喜劇女優で作家でもある、ファニー・フラッグ (Fannie Flagg) が書いた『フライド・グリーン・トマト』です。英語名は、“Fried Green Tomatoes at the Whistle Stop Cafe” と長いタイトルで、1987 年にランダム・ハウス USA 社から出版されました。

物語の舞台は、アメリカ南部のアラバマ州で、中年女性のエヴィリン・カウチ (Evelyn Couch) が、1986 年の現在を。老人ホームの住人ニー・スレッドグッド (Ninny Threadgoode) が、第一次世界大戦の終了した 1920～30 年代を昔話として語ります。又、当時の地元新聞の記事や、最後の章では、カフェで出される料理のレシピまで紹介される～といった形式で書かれており、軽快なテンポで読んでいて飽きが来ません。反面、登場人物の数が多く、名前が覚えられずに「誰だっけ？」と混乱する箇所もありますが、其処は此方の“頭の回転の鈍さ”と、外国名に不慣れな事を嘆くに止めて置きましょう。

アメリカ南部の古き良き時代と (住んだ事は有りませんが)、南部料理に思いを馳せながら読んでいると、エヴィリンとニーの会話を其処に座って聞いて居るような、一緒に誰かとお喋りを楽しんでいる様な気分させてくれます。という訳で、孤島に居ても寂しくなくて良いでしょう (余計に寂しく感じるかな?)。

では、これから、其の物語のあらすじを紹介させていただきますが、洋物はイマイチ～という方も、“ちょっと哀しくて、凄く楽しい” お話しますので、頑張ってお付き合いくださいませ。

* * *



中年太りが気になる主婦エヴィリンは、子供も独立して行き、自分に無関心な夫との倦怠期を打破しようと、女性啓発セミナーに参加する日々を送っていました。そんなある日、夫の叔母さんを訪ねた老人ホームで、80 歳とは思えないほど元気で、浚刺とした老女ニーと出会います。ニーの方も、話し相手が欲しかったのでしょう、直ぐに親しくなって自分の若かりし頃の話や、義理の妹にあたるイジー (Idgie) と其の友人ルース (Ruth) が経営した、ホイッスル・ストップ・カフェに纏わる話を聞かせ始めます。

其の昔、南部アラバマの片田舎に暮らす少女イジーは、男の子の様にお転婆で個性的でした。そして、嫌な事があって落ち込んだ時に、「ある日、湖に 50 羽の鴨がやって来た。しかし其の夜、急に寒波に襲われて、湖は鴨の脚もろとも、一瞬にして凍り付いてしまったんだ。けれども、鴨達は一斉に羽ばたいて、湖ごと飛び去って行ったとさ。そして、ルイジアナの何処かに、其の湖は有るんだ」といったような、ホラ話を聞かせて笑わせてくれる、兄のバディが大好きでした。



其の最愛のバディを突然の鉄道事故で無くしてしまい、失意のイジーに優しく寄り添ったのが、バディの恋人ルースでした。成長するに連れて二人の友情は、同性愛に近い程、深く結ばれて行きますが、クリスチャンのルースは世の常に従って結婚します。相手のフランク・ベネットは、イジーが「貴方は政治家にピッタリね」と皮肉った程、人当たりの良い野心家でしたが、ルースは、母親まで引き取って面倒を見てくれる～という言葉に絆されたのです。

しかし、実際のフランクは差別主義者で、暴力も厭わない男でした。結婚式には出なかったイジーですが、新居を訪ねて行った際に、ルースの顔の青痣を見てしまいます。間もなく母親が亡くなって、しがらみから解放されたルースは、イジーに「貴女の行く所へ、私も追て行く」という、助けを求める意味の手紙を書きます。イジーは小さい頃から家の使用人であった、黒人のビッグ・ジョージを伴い、ルースを迎えに行きます。フランクはビッグ・ジョージを見て警戒したのか？ 其の場は、大人しくルースを行かせる風を装いますが、妊娠している彼女を階段の上から突き落とす様な、卑劣な奴でした。イジーは「もし、ルースに近づいたら、殺してやるから」と捨て台詞を吐いて、フランクの家からルースを連れ去ります。

イジーの父親が借金をして(当時は、女性に投資をする銀行は無かった)、ホイッスル・ストップという小さな鉄道沿線の町に、カフェ(食堂)を開いてくれます。ルースは無事に男の子を出産し、バディ・ジュニアと名付けました。カフェはイジーとルースの共同経営で、キッチンには料理上手な黒人女性、シプシーと彼女の義理の娘が入ります。戸外に設けられた大きなバーベキューは、ビッグ・ジョージが仕切ります。



カフェの名物は勿論、此のバーベキューと、フライド・グリーン・トマトやフライド・チキンを始めとする南部料理です。料理の美味しさに、鉄道の利用客が必ず立ち寄る店に成りました。そして、慈善家のルースと自由奔放なイジーの意志で、黒人やホームレス(アメリカは当時、大恐慌に突入していて、

失業者で溢れかえっていた)達にも、分け隔て無く食事を出しますが(勿論、黒人は戸外で)、此れを面白く思わない人々も居ました。ルースに「子供を連れて家に戻れ!」と迫るフランクや、クー・クラックス・クラン(KKK)などから脅迫を受けます。

数ヶ月後、突然、保安官がやって来て、フランク・ベネットが行方不明になったと告げます。「もし、ルースに近付いたら、殺してやるから」と言ったイジーに、保安官は疑いの目を向けるのですが、決め手になる証拠がありません。何時かボロを出さないか〜と保安官がカフェに通い詰めて、5年の歳月が経ったある日、大雨が降りました。水嵩の増した川からフランクのトラックが発見された為に、とうとうイジーとビッグ・ジョージは裁判にかけられます。しかし、ルースの機転で地元の神父が証人台に立ち、二人のアリバイを証明しました。死体も見つからない事から、裁判官の判断で二人は無罪になります。

其の時、イジーはルースに「神父様が聖書に誓ったのに、ウソを吐いたわ」と驚きを隠せませんでしたが、ルースは「あれは聖書では無くて、白鯨よ」と答えます。そして「今後、教会のミサに行く〜という条件を呑んだので、宜しくね」と言います。

そんな喜びも束の間、ルースは癌に罹っている事が分かり、シプシーの献身的な看護のもと、静かに息を引き取ります。イジーが咽び泣くのをシプシーが抱き止めて「逝かせてあげましょう」と囁きます。そして「ルース様は、レディでいらしたから、お暇する時を心得ていらっしゃるのです」と言って、部屋の時計を止め、鏡に布を掛けました。残されたイジーとバディ・ジュニア、ビッグ・ジョージ、シプシーといった仲間達は、共に力強く生きて行く事を決意します。

現実のエヴィリンは、毎日、心尽しの手料理を用意し、テーブルには花まで飾って夫の帰りを待っているのに、肝心の夫エドは花なんかには見向きもしてくれません。冷蔵庫の缶ビールと料理の皿を掴むと、テレビの前に陣取って、スポーツ観戦をしながら食べるのです。其んな夫の事をエヴィリンは「時々、無性にアイツの頭を、野球のバットで殴り付けてやりたくなるわ」と言ってニニーを驚かせますが、老人ホームの看護師達は「極、正常な考え方です」と笑い飛ばします。



又、エヴィリンは更年期障害に突入していて、時々心拍数が不規則になったり、体温調節が出来ずに大汗をかいいたり、情緒不安定で急に泣き出したりする日々を送っていました。そんなエヴィリンに「ホルモンが不足しているからよ、お医者様からホルモン剤を貰いなさい。其れと、もっと外へ出て運動をしたらどう?働く事も良いわね」とニニーが勧めます。其の言葉に従って、エヴィリンは少しずつ元気を取り戻します。

そして、イジーとルースの話に心を打たれます。黒人や女性に対して、束縛や閉鎖感の多かった1920年代を、周りの重圧に負けずに強かに生き抜いた、個性的で魅力的な二人。其の話とニニーとの友情は、人生に行き詰まりを感じていたエヴィリンに、自分に正直に生きる事を教え、新しい人生を切り開いて行く勇気を与えてくれました。そしてエヴィリンは、身寄りも無く、老人ホームで孤独な生活をしてい

るニーを引き取って、お世話する事を決意し、子供部屋の改造を始めるのです。

* * *

『フライド・グリーン・トマト』は、人種差別と女性蔑視の著しかった時代の中で、逞しく優しく強かに生きた人達、一人一人が生き生きと描かれています。そして、物語を読んでいる内に、年輪を重ねて行く家族の愛と友情の大切さを実感し、こんな風に人と関わって行けたら、どんなに素晴らしいだろうか～と考えさせられます。又、エヴィリンのように私自身も、老いて行く事の不安や、時代に取り残されて行く不安、理不尽だらけの人生に憤って、めげそうになる毎日を送っていましたが、此の本を読む事で、登場する人達に励まされ、生きて行く事に希望が持てるようになりました(ような気がします)。

このお話を書いたファニー・フラッグは、本名パトリシア・ニール(Patricia Neal)。1944年9月21日、アラバマ(Alabama)州バーミングハム(Birmingham)に生まれ。父親に奨励されて、小さい頃から芝居のお話を書いたり、演じたりする事に興味を持ったそうです。ティーンの頃にミス・アラバマの候補に選ばれて、演劇学校への奨励金を受け取っています。地元のテレビ局で、番組の司会者などを務めた後、ニューヨークへ出て、本格的な女優への道を歩み始めます。其の際、英米ではアクターズ・ユニオンに登録しなくてはなりません、本名のパトリシア・ニールと同名の女優が既に存在していた為に、改名せざるを得ませんでした。「お前は喜劇女優に向いているから、ファニーはどうだ？」という祖父のアドバイスを受けて選んだのが、ファニー・フラッグという名前です。



そうして、女優やコメディアン活動をしながら、彼女は数々の台本や短編小説を書き続けましたが、代表作となったのが、此の『フライド・グリーン・トマト』でした。此の物語の要となる“ホイッスル・ストップ・カフェ”は、フラッグの叔母さん、ベス・フォーテンベリー(Bess Fortenberry)が1932年に、アイロンデール(Irondale)で、二人の友人と共に開いた店からインスピレーションを得たのだとか。

古き良きアメリカ南部と、現代女性の自己啓発を描いた『フライド・グリーン・トマト』は、ニューヨーク・タイムズのベストセラー(New York Times Best Seller List)に36週、掲載されました。

又、『フライド・グリーン・トマト』の映画化が決定されると、フラッグは脚本も手がけました。エヴィリン役にキャシー・ベイツ(Kathy Bates)、ニー役にジェシカ・タンディ(Jessica Tandy)、イジーにメアリー・スチュアート(Mary Stuart)、ルースにメアリールイズ・パーカー(Mary-Louise Parker)が選ばれ、1992年6月に、ユニバーサル社の提供で放映されました。映画は大好評を納め(何と言っても二人の名女優が良かった!)、アカデミー賞の二部門(助演女優賞と脚色賞)にノミネートされています。

本では[to wonder]を振ったインディアン語、“Towanda=Peaceful resting place”とだけ書かれて、遂に明かされなかったフランク・ベネットの失踪ですが、映画の中ではっきりします。

KKKと一緒に威をかけた後、数ヶ月経ったある夜、再びやって来たフランクは、子守りをしていたシプシーを殴り付けて子供を奪い取り、持ち去ろうとします。其れを



阻止しようと、ホームレスの一人がフランクの前に立ちはだかりますが、軽く去なされてしまいます。意を結したシプシーが背後から、鉄のフライパンでフランクを殴って昏倒させます。打ち所が悪かったのか？フランクは息を吹き返しませんでした。

此れを知らされたイジーは「正当防衛だわ」と言いますが、ビッグ・ジョージは「黒人に其の権利は認められていません」と言い、どうすべきか深刻に悩みます。夜明けが近い事もあって、二人は仕方なくバーベキューを焼き始めました。

という訳で、フランク・ベネットの死体は、保安官が食べてしまった～という事になっています。カフェに居続ける保安官が、バーベキューを1日に4皿も平らげた後で「如何してこんなに美

味いんだ？」と聞くシーンがあって、其の皿を片付けるシブシーのセリフ「Secret in the sauce(ソースに秘密が有りますのよ)」がゾクゾクする程、良かったです。

◎ 因みに、物語のタイトルでもある、

フライド・グリーン・トマトの作り方ですが、
熟していない青いトマトを、1cm ぐらいの厚さの
輪切りにします。其れに軽く塩・胡椒を振ってから
小麦粉をまぶし、溶き卵に潜らせてパン粉を付けます。



1cm ぐらいの深さのラードを熱したフライパンで、
シャロウ・フライ(炒め揚げ)にします。



青いトマトが手に入ったら、
絶対に作ってみたいな～と思いつつ、今日に至っています。



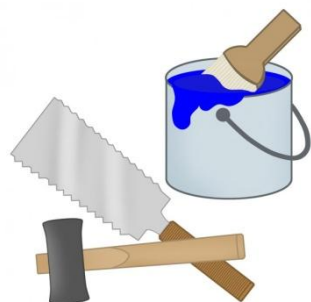
「記録」と「保存」

ネット文化サロン

S.K.からの E-メール

<物を捨てないイギリス人>

英国に最初にきたころ、イギリス人が古いものを大切にすることに感心したり驚いたりした。家具でも電気製品でもちょっと壊れても、それを修理したり部品を取り替えたりしていつまでも使うのである。そのためにハイストリートには必ず修理屋さんがあり、DIY の店も揃っていた。また、あちこちに中古品を扱う店があり、ガラクタとしか言いようのないものが山積みになって売られていた。日曜日ともなれば、どの家庭でも主人が梯子を出して屋根の修理をしたり、庭の芝刈り、大工工事に精を出していた。



イギリス人と知り合いになるにつれ、私も物を捨てない態度に慣れてきた。不思議なことに 30 年も経つと何でも価値が出て来て、古道具屋さんで売ったり、カーブツ・セールで売れるようになるのにも驚かされた。

現在でも思い出の品物をリペアショップに頼んで新品同様にしてもらおうとか、屋根裏に置きっ放しになっていたものを専門家を見つけ出してオークションに出すとか、リサイクル・センターに持ち込まれた古い家具などを修繕して再販すると言った古いものを大切にする数々のテレビ番組があるほどである。

イギリスの家は日本に比べれば広いし、大抵の家に屋根裏部屋あり、現在使わなくなったものや、直せば使えそうなものを保存するのには便利である。古いものを記録、保存しておく、というのは個人の家庭だけでなく、役所や教会、団体、企業、商店でも行われている。有名人が自分の祖先をたどるテレビ番組がある。教会や役所のアーカイブを駆使して 4 代から 5 代ぐらいまで遡って自分が何者かを知るのである。

イギリスの老舗の靴屋の取材をした時には、昔からの顧客の足の木型を保存しており、ビクトリア女王の物までちゃんと保存されていた。ロンドンのサビル・ローのテーラーを取材したら、開店当時からのお得意さんの背広の型紙が残されていた。顧客の中には戦前に日本大使だった吉田茂の型紙もあったそう。店のマネージャーに聞いたら、「これは日本にとっては大切なものだったので、彼が日本帰国後によく背広を注文した東京・銀座の M デパートに寄付した」とのことだった。早速、そのデパートに問い合わせをしたが、「もう要らないものなので処分しました」と言われた。

<日英タイムズ>

日本は建物が狭いので要らないものを保存する余裕はないと言われている。確かに何もかも保存するのは難しいかも知れないが、将来必要になると思われるもの、現在の社会の象徴的なものを保存することは、歴史観に基づいた物の価値の判断力が要求されることになる。現在は過去の歴史の上にあり、現在はまた未来に繋がって行く。その現在をないがしろにしたら、将来には繋がらない。戦争とか震災で資料を損失することもあるが、出来るだけ将来の参考になりそうなものは保存したい。

私は1990年代にロンドンで日本人コミュニティー新聞「日英タイムズ」を発行した。80年代の日本のバブル経済は一足遅れて英国の日本人社会にも大きな影響を与え、いろいろなことが邦人コミュニティーの中でも起こっていた。私はそれを記録しておきたいと思い新聞発行を決めた。発行に当たり大英図書館に通い、戦前の日本人社会のことや日本語新聞のことをいろいろ調べた。そこで、「日英新誌」というコミュニティー新聞を見つけた。そこには戦前の英国の日本人社会の動きが掲載されていた。貴重な資料である。記事を分析することにより、戦前の日本人社会が見えてくるのである。

「日英タイムズ」の発行に当たり、私は出来るだけ幅広く正確に日本人社会のことを取材し記事にすることを心掛けた。それと同時に創刊号から数部を自分で保存し、散逸しないようにした。新聞は2002年に残念ながら休刊となったが、全号を大英図書館、ジャパン・ソサエティー図書館、日本大使館図書館、そして日本の国会図書館に寄贈した。今では当時の英国の日本人社会の記録として、歴史を調べる学者やジャーナリストたちに寄与している。



<大切な歴史観>

学者や日本の歴史を調べている大学教授や学生から英国の日本人社会の歴史について尋ねられることがある。最近も「英国日本人会」の歴史を調べている日本人の学者と会った。日本人会には会としてのアーカイブがなく、古い会報や理事会の議事録等は散逸してしまっており、その蒐集は個人の篤志家に頼っている。事務所がないので保存場所がないというのは分かるけれど、その学者が言うには現代はデジタルの時代であり、資料をデジタル化すれば大きな保存場所は要らないし、会の歴史や資料は簡単に持ち運びも出来ると言うのである。正論である。

大英図書館とか国会図書館の様な大きな場所では膨大な紙の資料を保存できるかも知れないが、ここでもデジタル化して資料を保存している。場所がないという言い訳はもはや通じない。これから会を運営する人は、資料を全てデジタル化して保存する必要があるのかも知れない。

しかし、デジタル化を言うのは簡単だが、実行するのはそう簡単ではない。誰か専門の担当者を付けなければならない。現在は会報でも文集でもオンライン出版になっており、すでにデジタル化されているので、保存はそれほど大変ではないと思うが、初期の頃のものはスキャンしなければならないだろう。しかも、保存するには整理、分析をする必要も出てくる。

デジタル化は技術的には可能かもしれないが、日本人にはそれ以上に歴史への向かい方に問題があるのではないだろうか。日本は昔から災害の多い国だった。台風があり、地震、津波、火山、火事がある。そして最近戦争ですべてを失くした。国としての歴史は続いて、細かい個々の歴史は続かないのである。台風一過という言葉通り、大きな災害があっても翌日には新しい日が始まる。過去にこだわって生きていけないのである。そんな歴史観を変えない限り、要らない古いものは破棄し、明日のために何かを保存しようという気持ちにはなれないのではないだろうか。

もちろん、世の中で起こっていることをすべて記録、保存することは不可能だが、少なくとも自分が関わったことぐらいいは次の世代のために記録して保存しておくのは義務ではないかと思われる。日本も英国も長い歴史と伝統を誇る国である。古きものを大切に、未来のために現在を保存するという英国人の持つ歴史観には学ぶことがあるのではないだろうか。





N.O.からの Eメール

『私の場合』

私はもしかしたら、記録魔であり保存魔でもあるかも知れない。まず“記録する”から始めると、日記と会計簿は毎日、旅行記の類はその都度行う。そして“保存する”は税金・年金関係書類を始め銀行、ローカルカウンスル、電気・ガス・保険、新聞切り抜き等、封書で送られてくる多くを別個にファイルしている。最近では PC やスマホで銀行支払い関係処理するが、それでも紙のステートメントを要求し、収支照合に目を光らせている。paperless の時代に逆行と自慢さえしている。と言うことで、私の本棚は、本来の書籍以外にそれらのファイルで溢れている。いくら保存魔と言っても、“断捨離”を痛感する昨今、時々実行に移すが、棄てても一向に減らないので、先を思えば気が重くなる。ここまで書いて、ふと庭に目をやるとリスが来て、私のシクラメンの鉢植えを盛んに掘り返している。滑稽なのは、自分で埋めたどんぐりの実を忘れてしまい、私が見つかることもよくある。ちゃんと保存場所を覚えておいて、目印でもつけておけばなんてつい思ってしまう。人間には、記録し保存すると言う DNA が備わっているのだらうと、物をどんどん溜め込む自分で自分に納得させている。おかげで、E-ビザ申請時には多くの書類が役に立った。

『本屋・古本屋・図書館』

新本、古本に関わらず本屋に行ってみてまず感心するのは、出版物の豊富さである。ローカルの小規模な店から街中の大規模のものまで、書棚には何千何万冊も並べられている。学術書、小説、写真集その他多くの本には、各々の執筆者の蓄積された記録の結晶が一冊一冊に凝縮されているかと思えば、畏敬の念さえおぼえる。ましてや、大英図書館、アメリカ議会図書館、ボドリアン図書館などは、世界中の出版物が収納されていると聞くから、その数は膨大である。たとえ写本でも世界最古の書物と言われる「易経」や「聖書」まで揃えられているとすれば、過去 5,000 年の人間の歴史が詰まっている建物と考えられる。



昔は、古本屋によく出かけて、何か掘り出し物とは書棚を漁ったものである。しかし正直に言って、あの何となくかび臭いにおいと、人の

手垢がついていそうな古本の並ぶ店は、居心地がよい場所とは言えなかった。著名な作家のサイン入り初版本とか、書簡集、カタログレゾネには、多くは絶版になっているので、驚くような値札が付いている。因みに、ディッケンズの書簡集は 12 巻本で£4,200 ぐらいが相場と聞くので、有名作家になると、個人の手紙も日記も価値が出てくるらしい。最近では、多くの政治家や有名人が「Memoir」を出版しているが、古本屋に回されると二束三文の値になっているのが多い。

ましてや私の日記の類は二束三文どころか、金を渡してゴミとして引き取ってもらうのが、オチである。

『チャリティショップ』

前述の加藤さんの「物を捨てないイギリス人」でも言及されているが、渡英当時、全てが古いのにはお驚いた。高速道路の片側でエンコしているのはモーリスやオースティン社の旧型車。私の下宿先は、タウンハウスなのに室内照明は薄暗く、暖房はコインを入れての電気ヒーター、お風呂は石炭で化石燃料使用。一時帰国の度に、母が「これはとても便利よ、チンするだけで」と自慢したマイクロウェイブを、羨まし気に見やったものであった。以来、半世紀を過ぎた今、イギリスは大変貌をとげ、高道路ではテスラ、フェラーリ、アストンマーティンが疾走、屋根にソーラーパネルを付けた家々が増え、フィールドにはパイロン、沖合には風車が林立する風景も増えてきた。店には品物が溢れ、キャッシュレスの社会では、簡単にカードで買い物が出来るので、カード破産者も出てくる始末。新しいものをどんどん買い込んで、置き場がなくなった人はどうするか。気前よくチャリティショップに寄付する人が増えたのは確かである。私も定期的に服や小物を寄付するが、そこでついでに買い物もしてくる。探してい

たオペラのDVDやCD、稀観本などと意外な掘り出し物を見つけると、嬉しくなる。ただし、不要になった古い冷蔵庫や洗濯機を勝手に道路の片隅や空き地に放置して、問題になっているケースも時々聞く。プラスチックの買い物袋やボトルが波間を漂い、海岸線の美感を損なわせるだけでなく、魚や、鳥たちを怪我や窒息死させたりしているとも聞く。因みに日本では、服、紙、プラスチック等の環境ゴミ以外すべての廃棄処分は有料だと聞いている。チャリティショップも知る限り見かけたことがない。イギリス人に比べれば、断行、捨行、離行と断捨離が盛んと聞く日本では、敢えて捨て去ることが、武士精神の“潔さ”につながる美德として、いまだに残っているのかもしれないと、勝手に解釈している。

『歴史を遺す』

手紙や日記、小説や歴史書、学術書や報告書、その他多くの文字で書かれた文章はデジタル化され保存が出来るという便利な世の中になった。私がPCで作成した文章は、大切と思えば、ついこの間までUSBで保存していたが、現在はすべての文章をDropboxにほうり込んでいる。時々、この貸倉庫のようなDropbox社が倒産(?)したらと思わないでもないが、今のところあまり心配はしていない。私の手紙、日記、旅行記の類は、他人には関心があるはずはなく、書簡集やメモワールにもなることなどありえないから、いずれは破棄処分する予定である。



デジタル化して保存するのは多くの点で、容易・迅速・場所をとらないなど便利である。勿論、先程のリスのように保存場所を忘れなければ、一瞬にして目的の資料を得ることが出来る。

ところが数日前、私にとって大事件が起こった。丁度文集春号の最終段階に入りピッチを上げていた時、突然internetが作動しなくなった。気が付けばルーターのinternetの赤ランプが点滅している。それから10時間近くありとあらゆることを試みたが、効果なしであった。ところが、全てを投げ出そうかと思った寸前、午前零時数分前に、PCの下方にインターネットアクセスの印が再現、ルーターの赤い点滅がグリーンに戻った。いまだに何が原因であったのか分からないが、器械の弱点を様々と見せつけられた出来事であった。

空には人工衛星が飛び交い、陸に海に縦横のケーブル回線が交錯し、トイレの中まで侵入する電波に囲まれて、距離も時間も関係なく交信できる昨今だが、もしそれらの一部が故障したら、お手上げである。単なるPCの故障なら、原因が分かれば修理と言う手もあるのだろうが、回線切断とかサイバーアタック等となると、その修復にどれだけの時間と手間がかかるのか、想像もつかない。

先日ヒスローのサブステーションの火災で、エアーポートが24時間麻痺状態に陥ってしまった。以来数日経過したがいまだに原因不明とさく。今わが家でElectricityなしで稼働するものは何かと考えてみたら、ほとんど何もなかった。ガスクッカーさえ電気の点火でガスに火が付く。まあ、マッチを使えばガスはつくが。あとはバッテリーで動く車と時計ぐらいである。



大英博物館 「ロゼッタストーン」

これから数百年後、もしくは数千年後、果たして我々の遺したデジタル化された資料を解読する器械が存続しているのだろうか。もしあったとしてもその“電源”は新しい物質、レアアースやレアメタルなどの使用で、送電方法が変化・進化(?)してしまっていないだろうか等と、次々と疑問が湧き起こって来た。パピルスに書かれた文字、大理石や粘土板に刻まれた文字、ピラミッド、遺跡などから過去の歴史を学んできた我々だったが、未来人がディスク、USBそしてデジタル化されたファイルから、容易に我々の遺した歴史を知ることが出来るのであろうかと大いに気になる。とはいえ、勿論、念のため情報解読のためのPINナンバーくらいは、しっかりと石に刻んで残しておくべきだと思ったりもしている。



T. I. からの E-メール

『人類移動』

「英国への不法移民の問題が英国では大きな問題で、長いことなかなか解決できていないのですが、あなたはこの問題についてどのようにお考えですか？」



数年前、人材紹介の仕事をしていたとき、英国で MBA を勉強していた 28 歳の青年にこの質問をぶつけてみたことがある。彼は予期しない質問に面食らったようだが、一分だけ課題を整理する時間をくださいとことわってから答えた。

「大枠での英国への移民は、不法移民も含めて今後も減らないと思います。なぜなら、世界経済はキャピタリズムという軸で回っているのです、その性質上、経済発展を他の諸国と比べて大きく先行してきた欧米諸国などは、物やサービスを売る相手国に貿易障壁を撤廃するよう求めてきた経過があるからです。これは人の意志でというよりも、キャピタリズムの自然な要請であると思います。移民というと、各個人が自らの意志で行動をとっているようにみえますが、この現象をマクロでとらえると、豊かさを求めるという人類の普遍性があるように思えます。谷川の水は高所から流れ下りますが、この反対の現象です。移民問題は、キャピタリズム、ボーダレス化から生まれた富の高低からくる物理現象であるとも言えるのではないのでしょうか。」

私がこのことを思い出したのは、「人類の起源—古代 DNA が語るホモサピエンスの大いなる旅」(篠田謙一著、中公新書)という本を読み始めてからのこと。副題にあるように、近年、古代 DNA の解析が急速に進んで、人類の起源についての新説が発表されてきている。昔は、猿人、原人、ネアンデルタール人、ホモサピエンスといった順に人類が進化してきたような印象もあったが、実際には、現生人類ホモサピエンスは、絶滅したネアンデルタール人、デニソワ人などとも交雑してきたことが明らかになった。アフリカに多数存在していたホモサピエンスが、生存をかけて世界中に移り住むという大いなる旅を成し遂げたこともゲノム (遺伝情報) に記録、保存されているのである。

さらに、世界中に展開したホモサピエンスは、遺伝的にはほとんど同一と言ってもいいほど均一な集団であるという記述もある。つまり、ゲノムデータから見えていくと、集団同志の違いは、その集団内での個人差に比べても取るに足らないので、人種や国籍などで優劣をつけるのは愚かだとも言える。今起きている移民問題は現生人類=ホモサピエンス 60 万年の歴史の中でみると必然な出来事として DNA に記録される新しい人類出現につながるのではないだろうか？



注：英国への NET (英国への移民の数から英国から外国へ移民した数を引いたもの) 移民増は 1960 年くらいから 1990 年くらいまで少々はあるものの社会的な問題になるような数字ではなかった。1990 年くらいから一挙に NET 増が顕著になり始め、2004 年くらいから 2022 年くらいまで NET 増が毎年約 25 万人、2022 年、2023 年はいずれの年も 70 万人を超え、2024 年は 43 万人くらい。参照 Stastista

ネット文化サロン今号の投稿者
加藤節雄・小川のり子・飯塚忠治

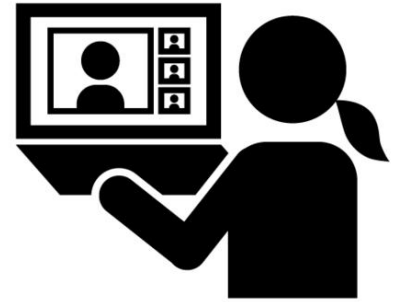
二水会の講演会に参加して

クレア 恭子

6月11日（水）オンライン開催の講演会は、演題『主婦からの挑戦！ゼロから始めた私の起業チャレンジ』となかなか勇ましい。講師は利恵クラウリー（Mrs）さんでJAのメンバーでもいらっしゃるのか。

私は日英で会社勤務を続け2015年夏に引退した。急にできた時間を有効に利用したい気持ちで、一時起業家セミナーに参加したがアイデアは皆無、瞬く間に10年が経ってしまった。でも学びの機会か、と参加してみた。

講演者のクラウリーさんはゼロからマーケティングを実践し、試行錯誤を重ねながら“自分流のマーケティング”を築き、現在Pointblank Promotions Ltd. の取締役として、日本の伝統食を英国市場へ広範に伝え・売り・届ける「SHOJIN MANIA」の運営に力を入れておられるとか。どんなにやり手の女将か、と画面を見つめていると、紹介された方は若くて笑顔が素敵で静かな口調の好感の持てる女性であった。



プロフィールによると、出発はグラフィック・デザイナー。ただ日本で友人とデザイン事務所を立ち上げた実績の持ち主で、私とは異なる。かなり商才溢れる方で人脈も上手く構築されてこられたのだろう、と想像する。

2004年の渡英、そして結婚、二人の男の子に恵まれ、家庭中心の生活であったが、持ち前の能力を生かす生活では無い、と困難を乗り越え、警察からのアドバイスに助けられ、フリーランスとして仕事を再開、日経コンサル会社勤務後2015年末にPointblankを立ち上げ、2016年にはGuilty Noodleというブランド名で、50種類以上のインスタントヌードルを集めたポップアップ店を実施。自分の考えや、方法で英国のマーケットを見つめ、日本の商品紹介に努力される。自分のやり方だけではあまり効率が良く無い、と反省もあったが、海外への販路を求める日本の方々へ、「現地を見つめた、正直なアドバイス」が奏している、と自信の言葉で講演を終了された。

参加者から「今力を入れておられるのは、何ですか？」との質問に、「きな粉です」との回答。は？きな粉？ 英国在住約半世紀の私には「わらび餅」しか思い出せない。季節によっては美味しいと思うが、母ほどの執着心は無い。里帰りは頻繁にしている、英国へ持ち帰ろうと考えた事の無い品の一つ。半信半疑、帰宅後日本の友人に聞かけると、現在は栄養素の高い利用価値のある美味しい食材で、バナナや果物に振りかけたり、牛乳に混ぜたりの人気商品とか。戦後間も無い頃の食べ方とは異なるらしい。



私は講演の目玉クイズに応募し、思いがけず、Shojin Mania の製品を手にする事ができた。なんと、袋を開けてビックリ。Plain きな粉・Macha きな粉・Cocoa きな粉・Sesame きな粉、それぞれカワイイお化けの図柄と色、さすがグラフィック・デザイナー、クラウリーさんの才能が輝いている様である。これなら売れそう！ 誰でも買いたくなる！

きな粉の原料は大豆である。現代はヘルシーな食材が重視される。昨今の“マッチャ人気”を目にしていると、“きな粉”の生産が追いつかなくなる日もそう遠くないかもしれない、と私は想像を膨らませている。

6月も貴重な講演会の開催を楽しむ事ができ 二水会の皆様へ感謝です。

日本の世界的なピアノ国際コンクール 「浜コン」に寄せて

小川典子

今日は、日本で行なわれる、世界的な国際ピアノコンクールをご紹介します。

1991年、浜松市市政80年を記念して誕生した「浜松国際ピアノコンクール」は、3年にいちど開かれる、世界から注目されるピアノの大コンクールである。当コンクールの第12回が、2024年11月、浜松アクトシティで行なわれた。浜松は、日本の2大ピアノ楽器メーカーが本拠地とし、ユネスコが認める音楽の街である。浜松の「やらまいか精神（まずはやってみよう!）」と相まって、コンクールは毎回、全国から多くの観客を動員。筆者は、2018年第10回、コロナ禍でイベントのみ開催の第11回、そして第12回の審査委員長を務めた。



国際コンクールの道は長く険しい。応募者は、まず、多くの書類と共に、予備審査のためのビデオ演奏を3月末までに送付する。浜コンでは、応募ビデオが、編集されていない一発撮りであることが条件である。課題はバッハ・ベートーヴェン・練習曲。第12回は、世界中から638名が応募。審査員は、2024年5月20-26日、東京において「缶詰」になって予備審査を行なった。ビデオには番号が付けられ、名前も国籍もわからない。審査員は黙々と審査をする。点数のボーダーラインがきれいに表されたところで、94名が通過。秋のコンクールに向けて、6月、結果発表とともに、新作の楽譜が送付された。

11月上旬。世界から集結した出場者たちのピアノ選びが始まる。浜松国際ピアノコンクールでは、YAMAHA、KAWAI、そしてドイツ製STEINWAYのピアノの中から、相性の良いピアノを選ぶことが出来る。アクトシティ中ホールの舞台に、3台のピアノが並ぶ。ピアノ技術者と出場者が真剣にピアノと対峙し、会場に独特の緊張感が漂う。

11月9日。第一次審査開始。課題は「20分のリサイタル・練習曲を入れるほか自由曲」。87名から第二次に残るのは24人。最も厳しい選考である。一人ひとり趣向を凝らしたプログラムと、全身全霊をかけた演奏が続く。ほとぼしるピアノの音を受け止める審査員にとって、第一次審査はもっとも過酷なものとなった。5日間の審査会ののち、投票そして結果発表。24名の通過者は、第二次審査に向けて会場をあとにするが、残念な思いをした63名は、審査員の講評を受けるため、フィードバックセッションの列に。審査員は、書きためたメモを片手に、時間の許す限り、彼らの「どうして先に進めなかったのか」という疑問に答えるのだった。

11月15日から3日間にわたり、第二次予選。課題は「40分のリサイタル」。古典派・ロマン派・近現代のカテゴリーから2種類を選んで演奏。加えて、コンクールのために書かれた新作を弾く。

全身全霊をこめた第一次で体力も気力も使いきってしまったピアニストが目立ち、演奏に疲れが出る人も。一方、余裕をもって楽しそうに音楽を語るピアニストたちは輝きを増す。かつて出場者の一人であった筆者の記憶をたどると、第二次・第三次で無心になれたときと、心に一抹の迷いがあるときでは、結果に大きな明暗が分かれたように思う。コンクールは演奏会と違い、どこまで演奏できるのかわからないままに全曲を準備する。「きっとダメだろう」と思っていたのに合格してしまうと、大きな戸惑いが演奏に出てしまうのである。

24人から12人へ。第三次予選。

ここで、室内楽が登場する。浜松国際コンクールでは、第三次予選で、モーツァルトのピアノ四重奏を演奏することが決まっている。モーツァルトは楽譜が簡素で簡単そうに見えるが、これほど演奏が難しい作曲家は、いない。厳選された音の流れをどのようにフレーズするのか、音楽家としての資質が大きく問われるのである。日本の弦楽器奏者たちは世界トップクラスである。そのトップ奏者たちと、いか

に丁々発止の室内楽を演奏できるか。これも大きく審査に影響する。今まで悠々とソロの難曲を弾きこなしていた人が、モーツァルトで苦戦することもある。審査員は、身を乗り出して室内楽に聴き入るのだった。課題は、モーツァルトを含めて70分のリサイタル。ピアノのレパートリーを代表する壮大な曲が会場に響きわたる。

そして、いよいよ本選会。6人のファイナリストが選ばれた。高揚感が増すなかで、ひとり日本人女性がぼつんと立っている。紅一点。本選出場に向けて開かれた記者会見で「友達とみんなで受けたのに、私だけなんて。一緒に頑張ってきたのに」と、寂しげな表情を浮かべた。本選は、11月23-24日。舞台を大ホールに移し、東京交響楽団・梅田俊明指揮で、協奏曲を演奏する。

厳正な審査とはどのように行われるのだろうか。ここまで、私たち審査員11人は、一日三食を共にし、休憩時間もおしゃべりをするなど、すっかり「親友」レベルになっていた。しかし、私たちには、ひとつだけ、守らなければならない規則があった。それは「審査のこと」。現在の国際音楽コンクールでは、公平で公正な審査を期するため、審査員同士で審査の話し合いをすることは固く禁じられている。私たちは、冗談を言い合い大笑いもしたけれど、この規則だけは厳しく守られていた。感情豊かな音楽家が、3週間に渡って「本当のところ、私、こう思っています」をゼッタイに口外できないのは、至難の業。それでも、審査員仲間は最後まで、この規則を厳格に守ってくれたのである。

いよいよ、本選審査の結果発表。集計を待つ審査員室は、凍りそうな静寂ではりつめる。コンクール事務局は、念には念を入れ、何度も何度も集計の確認を繰り返す。

第12回浜松国際ピアノコンクール。このコンクール史上初、日本人（初）女性（初）が、鈴木愛美（すずきまなみ）が栄冠に輝いた。

第一次予選から本選まで、会場の空気を変える、ひたむきな姿勢で名演を繰り広げたピアニスト。国籍、年齢、ジェンダーの壁を越えた、ひたすら音楽ありき…文句なしの優勝であった。

オリンピックと音楽コンクールは似て非なるもの。決定的な違いは、オリンピックはメダル獲得が目標だが、コンクールの金メダルは「ピアニストとしてスタートラインにつく」こと。

鈴木愛美は、2023年に日本国内コンクールを総なめにしたが、海外の審査員にとってダークホースであった。

深く思索する彼女の音楽作りは、審査員の心を揺さぶったに違いない。集計結果に異論を唱える審査員は、一人もいなかった。

応募638名の頂点に立った記念すべき第12回浜松国際ピアノコンクール優勝者・鈴木愛美。さいごに、英国日本人会の皆さまにも、彼女の名演にふれて頂ける機会があることを記して、この記事をしめくくりたい。

2026年1月23日（金）、鈴木愛美は、ロンドン・キングスプレイスでデビューリサイタルを開く。審査員長も、舞台上で話をする予定になっている。

現在、世界で国際ピアノコンクールと名をついたものは、約1000を数える。そのなかで、「浜コン」は、世界の頂点をめざす大ピアノコンクールである。第一位に輝くまでの長い道のりをお読みいただいたいま、ぜひ、英国日本人会の皆さまに、そして英国在住の皆さまに、鈴木愛美の心に響く演奏を間近に感じて頂きたい。HAMAMATSUの感動を、ここロンドンでわかちあえたら、筆者にとっても、その喜びは格別なものになるだろう。



ページ2より、アレクセイ・ナワリヌイの「パトリオット」の続き

*ベルリンのシャリテ病院での箇所を嬉しい思いで読み始め、最後にそれがヌカ喜びだったと知り、少しがっかりしてしまいました。ナワリヌイが病室で昏睡状態から目覚めた後、はっきりと思い出せる最初の人物は誰よりも頻繁に訪れてくれた担当医。日本からきた著名な神経外科医で、大学教授でと始まります。医師は素晴らしい人物で、少々髪は薄くなっているものの二枚目で真摯、おまけに頭脳明晰。自動車事故で失った彼の息子を偲んで詠んだ俳句を聞かされて、あれほど美しいものを耳にしたのは初めてと数日間涙を流し続けます。ナワリヌイの社会復帰計画の一環としてバイオニック義足や人口脊椎への置換等をその医師と楽しみながら話します。4本の巨大な人工触手があるスパイダーマンのドクター・オクトパスのようになれるかを想像して興奮する・・・など非常に詳細な描写が続きます。が、全てが6種類もの向精神薬を投薬されたために起こった壮大な幻覚症状だった知り、驚くとともにがっかりしてしまいます。「そういう医師が存在しないとしたら、自作の俳句に3日間も目を泣きはらしたと言う事実を突きつけられたわけだ」と自嘲気味。麻薬で気分がハイになると芸術作品が生まれる場合もあると聞きますので、まさにこの箇所は彼の“幻アート作品”と呼ぶべきかもしれません。

*瀕死のナワリヌイを、ロシアの病院からベルリンへの転院がどういう経緯でなされたか知りたいと思いましたが、それについての言及はありませんでした。ただ、メルケル首相（当時）はプーチンとは東ドイツ時代より交渉があり、ロシア語も堪能だと言われているので、この件については彼女の要請が大きくものを言ったのではないかと推測しています。1ヵ月以上の入院生活を送ったシャリテ病院を退院する日、突然、何の予告もなくメルケル首相（当時）が彼の病室を訪問。そして1時間半ほど主としてロシア政治について話し、彼女の豊富な知識に驚かされたりします。彼女にハグで感謝の意を表したかったそうですが、自分はトレーニングパンツにTシャツ姿だったので遠慮したとありますが、彼は案外、テレ屋だったのかもしれません。

*「ミハエル・ゴルバチョフはロシアでは人気がなかった」と書かれています。“ペレストロイカ”や“グラスノスチ”を唱え、それによって鉄のカーテンが破られ、ベルリンの壁が崩されるまでに発展した政策を推進した張本人であったのにどうしてか？と思いました。しかしその不人気な理由は“反アルコール・キャンペーン”を打ち出したことが致命的であったそうです。アルコール依存症が蔓延し、死亡者全体の約3分の1がアルコール関連死と言われるソ連時代、この政策を打ち出した彼をナワリヌイは大いに評価しながらも、それは国民を激怒させる内容だったからだとも言います。例えば、映画での飲酒シーンカット・結婚披露宴はアルコールなし・ワイン生産地のブドウ畑の大規模な破壊・密造酒製造ブーム・特定の人々は密かに飲酒・イースト菌販売の禁止等々。イースト菌なしではパンが作れなくなった主婦たち多くが彼の敵になりましたが、国民の飲酒量は大幅に下がったそうです。結局、優柔不断な面が見られたゴルバチョフからエルツィンに代わり、そしてプーチン時代になります。当時は誰が今の、ウクライナを攻め、汚職と犯罪が横行する、詐欺師と泥棒の党（ナワリヌイが名付けた統一ロシアの別称）が政権を握るロシアを想像したことでしょうか。

*欧米人がロシアに関して大きく誤解しているのは、「ロシア国家＝ロシア国民」である。またこの二者には全く共通点がなく、何百万人の市民の知らないところで、権力がとことんひねくれ者ととことん嘘つき者の手に握られていることだとも言います。そして、彼がプーチンを憎んでいるのは、自分を殺そうとしたからではなく、この20年、敵もいない、国境近辺は平和、石油や天然ガス等天然資源の価格が高水準で推移、輸出良好など、この期間を上手に生かしていたら、国民が豊かになり得たであろう20年を奪ってしまったからであると言います。自分の信条は、「未来の美しいロシア」だが、これはあくまでもごく普通の法治国家になることであると強調します。

世の中は、保守党から労働党へ、民主党から共和党へ、自民党の人气が落ちて立憲民主党が票を伸ばすなど、たとえそれがポピュリズムであろうとリベラルであろうと、選べる自由がある「国家＝国民」と呼べる図式が当然とされています。今回のウクライナ対ロシア戦争で、「ロシア国家≠ロシア国民」にさされているロシアの人々に「立ち上がれ!」「ファイト!」と呼びかける難しさを、このナワリヌイの本から学びました。それにしても困難の中、敢えてファイトと呼びかけ、それにすべてを捧げた人物が逝ってしまったのは、残念です。「ダビデとゴリアテ」の話が、もしや、21世紀の神話として蘇るか大いに期待したのですが・・・。

『英国春秋』 2025年 秋号 (No.47)

発行者 英国日本人会

編集者 小川のり子

原稿送付先 英国日本人会・文集部 *

タイトル フリーまたは特集に寄せて

字数 A4 1～3枚 (ワード添付)

締切日 2026年3月5日 (春号)

* bunshu@japanassociation.org.uk